

阪大NOW

地域に生き世界に伸びる

No.98
2007

8
月号

トピックス

鷺田清一総長の就任挨拶 第7回大阪大学フォーラム開催

インタビュー

新総長に聞く「コミュニケーションを大切にしたい」

クローズアップ

総合学術博物館がリニューアル・オープン



大阪大学広報誌

2007 8月号 No. 98

目 次

トピックス	2
インタビュー	4
クローズアップ	6
役員室だより	10
ナウススペシャル	22
キャンパスニュース	24
表 彰 等	40
人 事	46
計 報	52
名誉教授リレー随想	54
インフォメーション	56
ガイドマップ	63
留 学 生	64
クラブ&サークル	66
交流協定大学	67
トピックス	68



表紙写真：総合学術博物館へのサイン(左)
撮 影：安全衛生管理部教授 山本 仁
表紙デザイン：株式会社ココティエ

鷺田清一総長の就任挨拶



第7回大阪大学フォーラム



「地域に生き世界に伸びる」をモットーとして掲げる大阪大学にとって、懐徳堂と適塾を精神的な源流とすることは、創立の歴史的経緯を超えた深い意味をもっています。市民に広く開かれた学問所であるとともに、当時の世界の先端の知に深くふれていた懐徳堂と適塾の精神を現代に活かすことが、社会の〈知〉の機関としての大阪大学の未来を指し示しています。

法人化後の大阪大学は、その原点となる精神をあらためて深く胸に刻みつつ、まず「教養・デザイン力・国際性の涵養」という教育目標を掲げました。広い視野をもった確かな判断力、異なる人びと、異なる領域を編んでゆく柔軟な構想力、異なる文化的背景をもった人びととのコミュニケーション能力の育成です。とくに、学年が進むにつれて教養教育・コミュニケーション教育を重視してゆくその姿勢は、社会からも高く評価され、おかげで、近年は「教育の阪大」とまで言われるようになっています。

次に、「インターフェイスとネットワーク」という研究目標を掲げました。これは、世界最高レベルの研究を推進するとともに、時代の要請に応えるべく未知の融合研究領域を創出するということです。これはすでに大阪大学の伝統ともなっているのですが、その過程と成果を、産学連携と社学連携の両輪でもって社会につなげるよう努めてきました。

このように大学が果たすべき使命がますます膨らむなかで、一つ、大きな問題がわたしたちの前に立ちはだかっています。それは、教職員を押しつぶしかねない「多忙さ」です。時間の余裕、心のゆとりがなければ、研究における独創的な発想と、教育における懐の深さは生まれません。そのためには、大学業務を合理化するべく知恵を絞らなければなりません。構成員の資質をさらに磨くことも必要です。さまざまな場所で、さまざまな思いをもって大学を支えている人たちのあいだの意思疎通も重要です。

大学はなによりも〈文化〉の礎を築き、護りつづけるところです。大阪大学はその意味で、「ここで学んでよかった」「ここで働いてよかった」とだれもが言えるような、そして近隣の人たちに「大学が近くにあってよかった」と言ってもらえるような、そういう〈文化〉の香り立つ場所にならなければなりません。そのためにわたくしは微力ながらも全力を尽くすつもりであります。どうか、みなさまの厚いご協力を心よりお願い申し上げます。

大阪大学 総長 齋藤 隆一

新総長へのインタビューは、4～5ページをご覧ください。

開催

第7回大阪大学フォーラム「Frontiers of Economics and Its Applications（新しい経済学の挑戦：理論と実証）」が、オランダグローニンゲンにおいて、グローニンゲン大学と共催で開催されました。

詳細は、キャンパスニュース（34ページ）をご覧ください。



新総長に聞く 「コミュニケーションを大切にしたい」

8月26日、宮原秀夫前総長からバトンを受けた鷺田清一総長。専門は臨床哲学。哲学カフェやワークショップを実践する行動派学者でもあります。

今、国立大学法人の運営は課題が山積しています。これからの「阪大丸」の舵取りについて、抱負や展望などを語っていただきました。

(聞き手：松本紀文評価・広報課長、野瀬直則広報係長)

■ 総長に就任されて、まず率直なご感想を。

選ばれたときは「難儀なことになったなあ」と（笑）。今はずしんと重い責任を感じています。

宮原前総長や執行部の方々が知恵を出し合い進めてこられた大学運営を引き続き構成員のみなさんと一緒に考え、さらにいい大阪大学にしていくことが私の使命、これからの役目と思っています。みなさん、よろしくお願いします。

■ どのような総長像をイメージされていますか。

総長の役割は、みんなの意見を聞いて最終的に判断し、まとめることです。個性的なリーダーシップ以上にチームワークを大切にしたいと思っています。大学の運営も各室長の方が責任をもって処理していただく体制ができているわけですから、私はそれがうまく機能するよう後押しすることだと思っています。

■ 具体的には。

そうですね、ある意味私自身が広告塔のような役割も果たすべきだと思っています。いろいろな企業人や市民の方々と会って、直接話をして、大阪大学のこれまでの実績をアピールしつつ、大阪大学に対するご理解とご協力をお願いしたいと思っています。

■ まずどんなことを。

人が2人集まれば会話が始まります。人と人のつながりはコミュニケーションによってつくられます。先ほどチームワークと言いましたが、それにはコミュニケーションがやはり大切だと思います。特に「聴く」ことが大事だと思います。

教職員、学生、大学全体で風通しのよい環境を作りたいと思います。



■ 学生の声を積極的に聞かれていますね。

昨年度から教育担当の副学長との懇談会を吹田、豊中両キャンパスで始めました。今後も定期的 to開催するよう教育・情報室で決めました。学生は1日の大半を大学で過ごすわけですから、大阪大学をどう感じているのか、どのような大学になってほしいのか、直接訊いてみたいですね。「自分達は大学に大事にされている」と感じてもらえることがきっと阪大生の「プライド」につながると思います。

また、学生だけではなく、地域の人達とももっと交流ができたと思っています。それも単に一方通行の発信ではなく、双方向の意思疎通、つまり、コミュニケーションデザイン・センターで行っているカフェのような形をどんどん広げ、直接話をして一緒に何か活動ができたと思っています。

■ 海外経験は。

1982年から1984年にドイツに留学しました。ドイツの学生は3大学くらい渡り歩きます。ヨーロッパ（の大学）は、歴史や文化の層が非常に厚いだけあって、学問、カルチャーに多様性があります。いろんな考えの人がいて、それをお互い認めあっている。教員も学生もです。何事も押しつけないことが彼らの思想です。日本の大学と違うところですね。

■ これからの目標は。

私はランキングとか競争ということにとらわれたくないと思っています。もちろん大学が伸びていくにはそういうことも大事ですけど、今は大学も世の中もあまりにもそのことばかりに目を向けすぎているような気がします。

ですから、「〇〇プラン」とか「〇〇ビジョン」みたいな短期的な目標は作らない主義です。教育と研究はもっと長いスパン、100年200年もっと言えば1000年くらいのタイムスパンでその課題を考えるべきものです。

■ 「社会学連携」を言われていますね。

「21世紀懐徳堂」構想を温めています。ご存知のように懐徳堂は18世紀初めに大坂町人が作った町人のための学問所です。特定の学派や学説にとらわれない自由闊達な気風の中で勉強のできる理想的な環境がありました。大学も本来このような教育研究の場でなければ。21世紀の今なら何ができるのか、どんな場をつくるべきか、市民が主体的に関わっていく、そんな場所を梅田北ヤードに構想しています。

■ 哲学へ進んだ動機は。

京都の下京区の下町育ち。人情溢れる中で、子供の頃から芸者さんとお坊さんを見て育ちました。綺麗な着物を着た芸者さんと夏も冬も同じような質素な身なりで過ごすお坊さん。華美と質素、この両極端を見てきたわけです。ある日「お坊さんはかわいそうやなあ」と言うと、祖母が「そんなことはない。人間として一番の幸せを知っている」と言うんです。それは「極楽浄土」のことなんですね。普段綺麗な身りの芸者さんがオフの恰好でお宮さんに参っているんですね。郷里に帰りたいと願っているんです。人間のそんな二重性を見て育ってきたことが、哲学と言う学問の道を選択する土壌になっていたんでしょうね。

■ 趣味が豊富と伺いましたが。

特定の趣味はありません。強いていえば本を読むことでしょうか。ただ、どんなものにもでも好奇心は旺盛です。アート、ファッションだけでなく、音楽、身のまわりの生活や流行、若者の文化、食飲なんですかね。スポーツも結構好きで、プロ野球は阪神ファンです。



鷲田総長の著書の中から

■ 構成員に何かメッセージを。

所信表明みたいなのは嫌なんですけど、皆さんへの呼びかけという意味も込めて言えば、教職員の皆さんに「ここで働いてよかった」、学生達に「ここで学んでよかった」、そして地域の人達に「ここに阪大があってよかった」と言ってもらえるような大学、構成員と地域とが一体となって、お互いがパートナーシップをもった阪大連合みたいなものを目指したいですね。そんな「阪大スタイル」を確立したいと思っています。

10月には大阪外国語大学とも統合します。より社会に開かれた大阪大学を皆さんに知っていただき、また近隣の人々と一体となって、この大きな輪の中で仲良くやっていきたいと思っています。

<コメント>

京都市独特の物腰の柔らかさ、人当たりのよさをお持ちです。しかし、その奥には芯の強さ、粘り強さを秘めておられるようにも見えます。

これから4年間の阪大の針路を描いておられるようでした。

わしだ・きよかず

プロフィール

昭和24年京都府生まれ。昭和47年3月京都大学文学部哲学科卒業。平成4年4月大阪大学文学部助教授、平成8年4月同教授、平成15年8月同大学院文学研究科長・文学部長、平成16年4月大阪大学理事・副学長を経て、平成19年8月26日 第16代大阪大学総長に就任（任期：平成23年8月25日まで）。平成元年11月サントリー学芸賞、平成12年7月桑原武夫学芸賞受賞、平成16年4月紫綬褒章受章。



総合学術博物館がリニューアル・オープン

総合学術博物館長 江口 太郎

■ はじめに

総合学術博物館は、2002年4月の設立以来、“Museum”の語源の意味する「学術研究の殿堂」にふさわしい地下2階、地上4階、延べ床面積が8,000㎡の新館建築構想を温めてきました。この構想実現の気運を盛り上げるために、これまで年2回の企画展や特別展を、NHK大阪放送局1階アトリウムや中之島センターの佐治三三メモリアルホールなどで実施し、本年も5月1日から30日までイ号館で、「湯川秀樹・朝永振一郎展」を開催したのは記憶に新しいところです。大学を取り巻く財政環境の厳しい中、関係各位のご協力を得て、ようやく昨年、待兼山修学館（旧医療技術短期大学部本館、昭和6年築、3階建て2,100㎡）を全面改修して博物館展示場とすることが学内で認められました。



博物館正面

■ 新展示場の基本コンセプト

ここで、ユニバーシティ・ミュージアムとして求められている機能について簡単にふれておきます。最初に求められるのが、学内に散在する166万点を超える貴重な学術標本資料の保存と管理です。その学術標本からの学術価値の新たな探索を行うことも求められています。さらに、大学の教養教育の一環として学術標本を用いた実物教育を推進し、大学ばかりでなく、小・中・高等学校や社会人など広く地域社会に学術標本資料や大学で行われている先端研究の成果をわかりやすく提供することも重要な役割になります。つまり、学術標本資料に関して「収集・保存」、「分析・活用」、「再現・展示」の科学を遂行することが主要な博物館業務になります。

これらの機能を全部果たすためには、8,000㎡もの面積

が必要になりますが、現時点でも、学内外に大阪大学に博物館が存在していることすら十分に知られていない状況にあり、「再現・展示」を活発にして認知度を引き上げる必要性を痛感していましたので、現在の面積の中で常設展示・企画展示を通じた社会貢献に資する施設整備を基本的な考え方とすることに決めました。新展示場の基本コンセプトは、大阪大学のモットーである「地域に生き世界に伸びる」を具体化する「交流型ミュージアム」とし、各フロアの展示プランを策定しました。

法人化以降の大阪大学の教育目標は、「教養・デザイン力・力・国際性」の涵養です。この3つの目標の達成に役立ち、かつ地域社会との連携機能をもつ「交流型ミュージアム」の構築を目指して、展示内容などを決定しました。すなわち、大阪大学の「知の集積」を中心に、さまざまな人・モノが行き交う場を創出し、こうした交流を通じて、大学の基礎研究や応用研究の伝統がどのように社会とつながっているかを発信することを、展示や映像等の制作の基本方針に据えました。



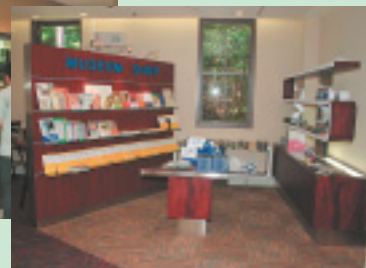
玄関ロビー壁面の
マチカネワニ

■ 各フロアの展示

1 階

その仕掛けの第1段階として、親しみやすい博物館にするため、オープンテラスをもったミュージアムカフェ『坂』とミュージアムショップを併設することになりました。最近よく耳にするサイエンスカフェなどの定期的な開催を目指しています。1・2階を吹き抜けにした玄関ロビーの壁面にはマチカネワニのレプリカを取り付け、話題性のある空間を演出しました。バリアフリーであることも博物館としては必須で、3階建てではありますがシースルーのエレベータを設置しました。

その他、2つの展示ゾーンを設けました。「世界にはばたく研究者」のコーナーでは、阪大在職中に書き上げた「中間子論」の論文で日本初のノーベル物理学賞を受賞した湯川秀樹博士と初代総長岡半太郎博士など、大阪大学の草創期の研究者たちを紹介しました。また、その草創期の熱気を知る大先輩6名のインタビュー映像も流すようにしました。「コンピュータの黎明期」のコーナーでは、工学研究所蔵の真空管式電子計算機1号機を移設し、それまでに普及していた機械式計算機などを操作法の映像とともに展示することにより、計算機の変遷をわかりやすく解説しました。



カフェ『坂』（左）とミュージアムショップ

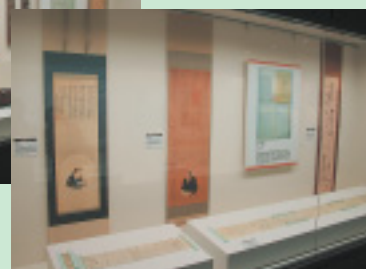
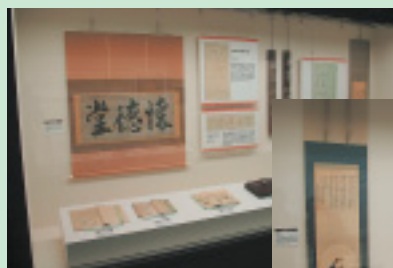


「世界にはばたく研究者」コーナー

2 階

2階は2つの展示ゾーンで構成されます。南側のウイングに「大阪大学の系譜」ゾーンをつくり、阪大の精神的源流とされる懐徳堂（1724年）と適塾（1838年）についての資料および1931（昭和6）年に創設された大阪帝国大学にまつわる資料や旧制大阪高等学校と旧制浪速高等学校の資料を展示し、わが国有数の総合大学に発展した大阪大学の歴史を紹介しました。文書館設置準備室の協力を得て、詳しい年表や映像も作製しました。大阪大学の市民的で自由な学風の伝統を地域の方々に紹介するためだけでなく、大学の教職員・学生にそのような大阪大学への愛着を感じて欲しいと考えたからです。

北側のウイングは「みる科学」のゾーンです。展示ストーリーのキーワードを「みる」として、学内から貴重資料を集めることにしました。大阪大学におけるミクロな世界の可視化への挑戦の歴史である光学顕微鏡（コッホの顕微鏡の展示）による細菌の研究、電子顕微鏡によるウイルスなどの観察（わが国初の電子顕微鏡1号機や3号機の展示）、X線結晶構造解析によるシトクロームcの結晶構造模型など「みる科学」の歴史を展示しました。主役の「モノ」ばかりでなく、そのモノを生み出した大阪大学の研究者群像にもスポットを当てるようにしました。



「懐徳堂」と「適塾」



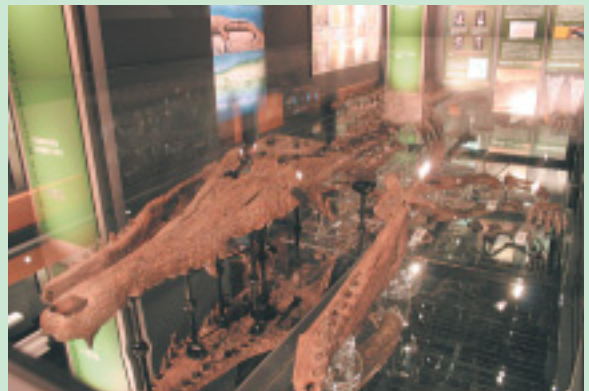
「みる科学」ゾーン

3 階

北側にはマチカネワニの実物化石をはじめ、待兼山を中心にした地域の古環境や歴史を学べるゾーンがあります。1964年5月に豊中キャンパス・理学部の建築現場から発掘されたマチカネワニは、日本で初めて発見されたワニ類の化石で、今では阪大の宝といってよいものです。その発掘から42年の歳月を経て、2006年になってようやくマチカネワニ化石骨格の完全記載論文が北海道大学的小林快次助教授らにより出版されました。また、千葉大学の百原 新准教授らはワニ化石が発見された大阪層群の植物化石の詳細な分析を進め、ワニが生きていた50万年前の植生や環境について新たな知見を得ています。

隣接するコーナーでは、埋蔵文化財調査室が2005年の待兼山周辺修景整備工事に伴う待兼山5号墳の発掘調査で見つけた、珍しい埴輪類の全形復元を展示しました。待兼山5号墳は、古墳時代中期（5世紀後半）に築造された直径15mの円墳で、後世の破壊により埋葬施設は失われていましたが、古墳の周りを区画した溝からは埴輪や須恵器の破片が大量に出土しました。なかでも、もっとも大きな発見は大阪府下ではじめて馬と馬を曳く人物（馬曳）の埴輪がセットで確認されたことで、新聞にもその研究成果が大きく報道されました。

南側のゾーンには、企画展やミニコンサートができる多目的ルームや子ども理科教室などのためのセミナー室を配置しました。公開直後の8月23日(木)、24日(金)には、小学5、6年生を対象にした夏の科学体験教室を理学研究科、基礎工学研究科の教員の協力を得て開催しました。また、11月1日(木)から30日(金)まで、大学祭の期間を挟み、総合学術博物館第7回企画展「くるみ座の半世紀—関西新劇の源流（仮題）」を文学研究科との共催で計画しているところです。



マチカネワニの実物化石



「待兼山に学ぶ」ゾーン

屋上階

屋上階は、非常に眺めが良く、待兼山の里山としての自然もよく観察できます。塔屋の小さな部屋を自然学習コーナーとし、豊中と吹田の両キャンパスの植生を学べるようデザインされています。

また、大阪大学のシンボル「いちょう」の由来を説明したパネルも展示され、大阪大学の歴史の一端にふれることもできます。

屋上階からは階下にシースルーエレベーターで降りることができます。



自然学習コーナー

■ おわりに

8月17日(金)に完成の披露式典を開催し、翌日の18日(土)からは一般公開を開始しています。したがって、皆さんがこの記事を目にする頃には自由に観覧していただける予定です。これまでは、土曜日は休館日にしていましたが、この新展示場は日曜と祝日が休みで、月～土曜日、午前10時から午後4時30分まで入場無料で公開します。是非ともお越しいただき、リニューアルした大阪大学総合学術博物館をお楽しみください。

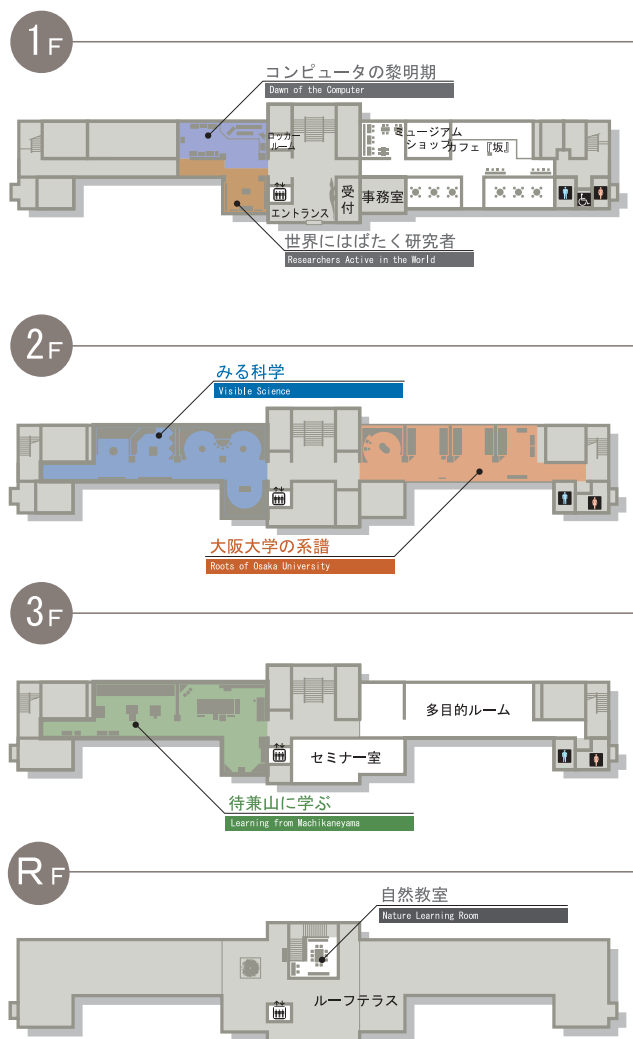
最後に、当館では残された課題、「収集・保存」と「分析・活用」の機能拡充にも取り組んで参りますので、今後もしっそうのご支援を賜りますようお願い申し上げます。

披露式典の様子



宮原秀夫総長の挨拶

大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館のご案内



- ◎開館日：月曜～土曜 午前10時～午後4時30分
- ◎休館日：日曜・祝日、年末年始
- ◎入場無料

アクセス 阪急電車「石橋駅」下車、東へ徒歩約7分
大阪モノレール「柴原駅」下車、徒歩約20分

えぐち・たろう

プロフィール

総合学術博物館教授。1976年大阪大学大学院理学研究科博士課程単位取得退学。同年4月大阪大学教養部助手。同助教授、理学部助教授を経て2002年大学院理学研究科教授。同年4月に総合学術博物館へ配置換。2005年4月から総合学術博物館長。

役員室だより

2007.8 Vol.19

前号の役員室だよりでもふれました本学の平成20年度新規概算要求事項については、6月下旬に文部科学省に提出し、7月9日に文部科学省のヒアリングが行われました。要求事項の一覧は以下のとおりです。

また、平成18年度業務実績報告書についても6月末に同省に提出し、8月6日に国立大学法人評価委員会のヒアリングが行われました。いずれも普段からの教育研究における本学の活動実績が評価され、ともによい結果が出るものと思っています。

法人化後最初の役員である現執行部（総長・理事）は8月25日をもって任期満了となります。本学構成員の皆様にはこれまで本学の発展のために日々ご尽力いただきましたことに感謝申し上げます。

次回以降は、新執行部の下での各室等の動きや検討状況等をお知らせすることになります。

平成20年度新規概算要求事項（大阪大学→文部科学省）

区 分	事 項	備 考
【特別教育研究経費】		
○教育改革経費		
薬 学 研 究 科	高度専門薬学教育システムの確立(5-3)	継続事業
臨床医工学融合研究教育センター	臨床医工学・情報科学融合領域の人材育成教育プログラムの開発(5-3)	継続事業
コミュニケーションデザイン・センター	コミュニケーションデザイン教育事業の推進ーコミュニケーションデザイン・センターー(11-4)	継続事業
グローバルコラボレーションセンター	国際協力・共生社会のための実践的教育改革事業ーグローバルコラボレーションセンターー(9-2)	継続事業
サイバーメディアセンター	高度外国語教育全国配信システムの構築(5-2)	継続事業
世界言語研究センター	社会人を対象とした学士レベルの外国語教育プログラムの提供(4-1)	
教 育 ・ 情 報 室	ナノマテリアルデザイン・リサーチトレーニング事業の推進ー多重ネットワーク型大学院学際専攻に向けてー(5-1)	
○研究推進経費		
微 生 物 病 研 究 所	感染症対策研究連携事業(感染症国際研究センター)(10-4)	継続事業
蛋 白 質 研 究 所	生命の秩序化を担う膜蛋白質の構造・機能メカニズムの解明を目指す国際フロンティア(膜蛋白質研究国際フロンティア)(5-4)	継続事業
社 会 経 済 研 究 所	中国香港科学技術大学実験ビジネス研究センターとの連携による経済実験プロジェクト(5-4)	継続事業
接 合 科 学 研 究 所	全国共同利用附置研究所連携事業(金属ガラス・無機材料接合技術開発拠点)(5-4)	継続事業
超 高 圧 電 子 顕 微 鏡 センター	超高圧電子顕微鏡を中核とする新しい病理診断法の研究創出事業(5-4)	継続事業
ラジオアイソトープ総合センター	全学放射線取扱者研究推進支援事業(5-4)	継続事業
極 限 量 子 科 学 研 究 センター	極限ナノ物性研究創出事業(5-4)	継続事業
世界言語研究センター	民族紛争の背景に関する地政学的研究ー中央アジア、アフリカ、パレスチナ、旧ユーゴの言語・文化の研究ー(5-2)	継続事業
レーザーエネルギー学研究センター	相対論光科学研究創出事業(5-4)	継続事業
産 業 科 学 研 究 所	附置研究所連携事業(新産業創造物質基盤技術研究センターによる中核的研究拠点間アライアンス実現に向けたポストシリコンの戦略的研究)(5-4)	継続事業(増額要望)
レーザーエネルギー学研究センター	高出力レーザーによる高エネルギー密度状態の科学の開拓(5-3)	継続事業(増額要望)
生命機能研究科、薬学研究科、医学系研究科	先端的イメージングによる高次生命機能解明と創薬支援(5-1)	
医 学 部 附 属 病 院	テーラード型再生医療の創成・難治性三大疾病克服にむけたトランスレーショナルリサーチの実践(5-1)	
科学教育機器リノベーションセンター	革新的研究教育基盤機器開発整備事業(5-1)	

区 分	事 項	備 考
○拠点形成経費		
核 物 理 研 究 セ ン タ ー	偏極標的を用いたハドロン物質研究推進事業(5-4)	継続事業
理学研究科、核物理研究センター	荷電レプトン混合現象探求のための大強度高輝度高純度ミューオンビーム源研究拠点形成事業(5-1)	
○連携融合事業経費		
理 学 研 究 科	超分子におけるストレスと共生(5-3)	継続事業〔教育関連〕
金 融 ・ 保 険 教 育 研 究 セ ン タ ー	新領域分野「金融・保険科学」に関する文理融合型教育プログラムの開発—金融・保険教育研究センター教育事業—(5-3)	継続事業〔教育関連〕
工 学 研 究 科	アトミックテクノロジー創出事業(4-3)	継続事業〔研究関連〕
医 学 系 研 究 科	「子どものこころの発達研究センター」による教育研究事業(6-3)	継続事業〔教育関連〕(増額要望)
基 礎 工 学 研 究 科	量子機能融合による未来型材料創出事業 スピントロニクス、オプトロニクス、モレクロニクス融合による未来型機能材料創出事業—(5-1)	〔研究関連〕
○設備マスタープラン枠(仮称)経費		
医 学 部 附 属 病 院	医療器具滅菌システム	
接 合 科 学 研 究 所	自動X線マイクロアナライザシステム	
太陽エネルギー化学研究センター	太陽エネルギー変換および光機能材料・デバイスの構造・特性評価システム	

【病院特別医療機械設備(長期借入金対象)】		
医 学 部 附 属 病 院	血管撮影装置	
医 学 部 附 属 病 院	X線透視撮影装置	
医 学 部 附 属 病 院	MRI(磁気共鳴断層撮影装置)	
医 学 部 附 属 病 院	SPECT検査システム	

【施設整備費】		
○人材養成機能を重視した基盤的施設の整備		
学 生 部	(石橋)学生交流棟整備等事業	PFI事業(13-4)
工 学 研 究 科	(吹田1)研究棟改修(工学部)整備等事業	PFI事業(13-3)
文 学 研 究 科	(石橋)文法経本館改修	(42) 耐震改修はH18補正で措置
法 学 研 究 科	(石橋)文法経本館改修	
経 済 学 研 究 科	(石橋)文法経本館改修	
総 合 学 術 博 物 館	(石橋)総合学術博物館	
理 学 研 究 科	(理)研究棟改修(E棟)	耐震補強
医 学 部 保 健 学 科	(薬・保健)ヘルスケア科学総合研究棟	合築整備
薬 学 研 究 科	(薬・保健)ヘルスケア科学総合研究棟	
歯 学 研 究 科	(歯)歯学部本館改修	
工 学 研 究 科	(工)耐震対策事業	S45年以前 耐震補強
工 学 研 究 科	(工)改築事業(Enew)	
大 学 教 育 実 践 セ ン タ ー	(石橋)イ号館改修	S45年以前 耐震補強
学 生 部	(石橋)学生会館改修	S45年以前 耐震補強
附 属 図 書 館	(図書)本館等改修	S45年以前 耐震補強
附 属 図 書 館	(図書)吹田分館改修	S45年以前 耐震補強

役員室だより

区 分	事 項	備 考
総 合 計 画 室	(石橋)文理融合型総合研究棟	
総 合 計 画 室	(吹田)基幹・環境整備	(6-1)受水槽・屋外給水・ガス配管
総 合 計 画 室	(石橋)基幹・環境整備	(6-1)2回線受電
	(粟生間谷)研究講義棟A棟改修	
	(粟生間谷)基幹・環境整備(道路等)	
	(粟生間谷)基幹・環境整備(揚水設備等改修)	・受水槽高架水槽の改修、ポンプ 設備揚水管の改修、空調設備の 改修(A棟・管理棟・図書館)
○卓越した研究拠点の整備		
医 学 部 医 学 科	(医)未来医療開発推進センター棟	
工 学 研 究 科	(吹田1)アライアンス棟	
情 報 科 学 研 究 科	(吹田2)情報系総合研究棟	(3-3)
生 命 機 能 研 究 科	(生命)高次生命機能イメージングセンター棟	
微 生 物 病 研 究 所	(微研)本館改修	(2-1)S45年以前 耐震補強
産 業 科 学 研 究 所	(産研)研究棟改修	(3-2)S45年以前 耐震補強
蛋 白 質 研 究 所	(蛋白)本館改修	耐震補強
レーザーエネルギー学研究センター	(レーザー)慣性核融合実験棟中央監視装置等更新	
教 育 ・ 情 報 室	(吹田2)大学福利施設	
○先端医療に対応した大学附属病院の整備		
医 学 部 附 属 病 院	基幹・環境整備として年次計画(5-1)	熱源設備改修(5-1)
		空調設備改修(5-1)
		搬送設備改修(5-1)
		放射線モニターシステム改修
		医療ガス供給設備改修
		外壁改修(4-1)

【追加要求・プロジェクト】

区 分	事 項	備 考
【特別教育研究経費】		
○教育改革経費		
教 育 ・ 情 報 室	社会連携活動を通じたインターンシップの推進(3-1)	
教 育 ・ 情 報 室	国際学際融合教育の推進とプラットフォームの構築(5-1)	
教 育 ・ 情 報 室	大学教育のグローバル化に対応したFD支援事業(5-1)	
教 育 ・ 情 報 室	阪大ウエイを実現するためのナレッジキャンパスの構築—学生と教員のコラボレーションによる実践的学習環境の創造(3-1)	

【追加要求・9月入学支援経費】

【特別教育研究経費】		
○その他の経費		
教 育 ・ 情 報 室	秋季入学実施による大学・大学院改革へ向けての調査研究(3-1)	

新執行部紹介（平成19年8月26日から）

総長	鷲田 清 一
理事・副学長（総合計画担当）	西 田 正 吾
理事・副学長（教育・情報担当）	小 泉 潤 二
理事・副学長（研究推進担当）	西 尾 章治郎
理事・副学長（評価・広報担当）	高 杉 英 一
理事・副学長（財務・会計担当）	門 田 守 人
理事・事務局長（人事労務担当）	佐々木 順 司
理事（国際交流推進担当）	辻 毅一郎
監事	二 瓶 文 博
	吉 田 周 邦（非常勤）
総長補佐	三 成 賢 次（法学研究科長）
	小 谷 眞 一（理学研究科長）
	山 元 弘（薬学研究科長）
	豊 田 政 男（工学研究科長）
	林 紀 夫（医学部附属病院長）
	川 合 知 二（産業科学研究所長）
	大和谷 厚（学生生活委員会委員長）

各室の検討状況

総合計画室

多様な人材活用推進委員会

本学の女性研究者のキャリア継続のため様々なサポートを行うことを目的としたプログラム「次世代に繋ぐ女性研究者サポート連鎖」（平成19年度科学技術振興調整費『女性研究者支援モデル育成』）を既にスタートさせ、7月から「女性研究者キャリア・デザインラボ」を設置するとともに、「研究支援員制度」の募集を開始しました。

また、9月には同ラボに特任准教授を採用し、女性研究者支援のための様々な取り組みを進めてまいります。詳しくは、ナウスペシャル（22～23ページ）をご覧ください。

学内措置による組織の整備

新たな予算措置を伴わない学内措置による組織整備として次の事項が認められました。

- ・医学部附属病院中央診療施設の名称変更（平成19年7月1日から）
周産期母子医療センター → 総合周産期母子医療センター
- ・理学研究科数学専攻の連携分野の変更（平成20年4月1日から）
巨大系数理連携分野 → 統合数理科学連携分野

同窓会連合会の動き

連合会では、今年の3月から会員募集を開始したところですが、7月時点での入会者数は、卒業生や教職員OB及び現教職員合わせて約2,700名となっています。

今年度は、会員向けサービスとして、連合会ホームページに会員専用のポータルサイトを開設し、会員同士が自由に情報を交換できるコミュニティサイトの開設、研究室紹介など、連合会ホームページ上での情報交換、情報提供の場を設ける予定としています。なお、今後の事業計画については、連合会会員のご意見を伺いながら企画、検討してまいります。

また、部局同窓会や地域同窓会、職域同窓会など連合会以外の各種同窓会の広報への協力や、大学への支援・協力にも努めてまいります。まだ入会されていないOB、現職教職員の方々には一人でも多く加入していただきますようよろしくお願い申し上げます。

同窓会連合会 HP : <http://www.osaka-u.ac.jp/jp/dousoukai/top.html>

「週間でんき予報」のホームページ掲載

施設マネジメント委員では検討事項の一つとして、省エネの推進、啓発にも取り組んでいますが、7月から施設部の協力により本学ホームページの大阪大学ポータル内に「週間でんき予報」を掲載しています。

予報は、過去の電力データ及び予想最高気温を参考にして算出した一週間の予想電力量を掲載し、大学教育実践センターのキャラクターとしておなじみの「ワニ教授」が、様々な表情で節電を呼びかけています。教職員及び学生のみなさんには、無理無駄のない省エネへのご協力をお願いいたします。

週間でんき予報は、大阪大学ポータル「学内専用ページ」の施設関係ページよりアクセスできます。



教育・情報室

大阪大学大学院高度副プログラム

教育・情報室、教育課程委員会では、昨年来、「主専攻・副専攻」制度の導入につきまして、主専攻・副専攻に関するワーキングを設置し、検討を続けてまいりました。このたびその前段階として、「大阪大学大学院高度副プログラム申し合わせ」をとりまとめ、9月の部局長会議での承認を得て、次年度よりこのプログラムを実施する予定です。本プログラムは、本学大学院生に、幅広い視野、確かな社会的判断力、想像力豊かな知的編集能力、異分野とのコミュニケーション能力をしっかりと身につけてもらうことで、知の新たな胎動、新たな構造変換に対応できる研究者・高度専門職業人を養成しようという教育改革の一環です。

各部局におかれましては、このプログラムを部局での大学院教育に十分に活用していただきますよう、お願い申し上げます。「主専攻・副専攻」制度の導入につきましては、各研究科のご意見も十分にお伺いしながら、教育課程委員会にて今後とも検討を続けてまいります。

研究推進室

部局横断型の研究プロジェクト支援経費によるシンポジウム等

研究推進室が教育研究等重点推進経費として配分を受けた部局横断型の研究プロジェクト支援経費による各研究戦略ワーキンググループのシンポジウム等及び主たる世話人が下記のように決定しました。

ワーキング名	シンポジウム等名称	主たる世話人
ナノサイエンス・ ナノテクノロジー 研究戦略	第3回阪大ナノサイエンス・ナノテクノロジー国際シンポジウム (平成19年9月26日～28日開催予定)	理学研究科 教授 赤井 久純
	イノベーションジャパン2007へのナノ研究シーズの出版 (平成19年9月12日～14日開催予定)	接合科学研究所 教授 節原 裕一
生命科学・ 生命工学 研究戦略	第3回21世紀を拓くフロンティア産業バイオ国際シンポジウム (平成20年1月開催予定)	工学研究科 教授 原島 俊
	知と行動シンポジウム (開催日未定)	生命機能研究科 教授 藤田 一郎
	イメージング研究ワークショップ (開催日未定)	薬学研究科 教授 土井 健史
理工学 研究戦略	第3回「アクア」シンポジウム (開催日未定)	基礎工学研究科 教授 大垣 一成
	第3回「非線形テクノサイエンス」講演会 (開催日未定)	基礎工学研究科 教授 杉本 信正
	先端技術デザインセンター第3回シンポジウム (開催日未定)	工学研究科 教授 谷口 研二
	基礎科学研究戦略シンポジウム (開催日未定)	理学研究科 教授 高原 文郎
文 系 研究戦略	ワークショップ「東アジア地域統合の展望とアジア研究・教育体制」 (平成19年11月17日開催予定)	文学研究科 教授 秋田 茂
	第3回ワークショップ「武力紛争の終結後（ポスト・コンフリクト）の国や地域における平和構築と人間の安全保障」（平成19年12月開催予定）	人間科学研究科 教授 栗本 英世
文理融合 研究戦略	ワークショップ「リスク、科学、価値—アジアにおける人間の安全保障」 (平成20年2月開催予定)	人間科学研究科 教授 小泉 潤二

平成19年度グローバルCOEプログラムの採択状況

グローバルCOEプログラムは、21世紀COEプログラムを更に発展させ、我が国の大学院の教育研究機能を一層充実・強化し、世界最高水準の研究基盤の下で世界をリードする創造的な人材育成を図るためのものです。そのために国際的に卓越した教育研究拠点の形成を重点的に支援し、国際競争力のある大学づくりを推進することを目的として今年度から導入されました。本学からは、下記プログラム7件が採択されました。これは全大学トップの採択件数です。

	分 野 名	拠点のプログラム名称	拠点リーダー所属・職・氏名
1	生命科学	高次生命機能システムのダイナミクス	生命機能研究科・教授・柳田 敏雄
2	化学、材料科学	生命環境化学グローバル教育研究拠点	工学研究科・教授・福住 俊一
3	化学、材料科学	構造・機能先進材料デザイン教育研究拠点	工学研究科・教授・掛下 知行
4	情報、電気、電子	アンビエント情報社会基盤創成拠点	情報科学研究科・教授・西尾章治郎
5	情報、電気、電子	次世代電子デバイス教育研究開発拠点	工学研究科・教授・谷口 研二
6	人文科学	コンフリクトの人文科学国際研究教育拠点	人間科学研究科・教授・小泉 潤二
7	学際、複合、新領域	医・工・情報学融合による予測医学基盤創成	臨床医工学融合研究教育センター・教授・野村 泰伸

評価・広報室

18年度業務実績報告書の公表

6月末に、平成18年度業務実績報告書を文部科学省国立大学法人評価委員会に提出し、8月6日には同委員会評価チームによるヒアリングが実施されました。評価結果（案）が9月上旬にまとめられ、大学への意見照会（意見申立の機会）を経て、9月下旬に評価結果が公表される予定です。

同報告書については、ホームページで公表しています。

[http://www.osaka-u.ac.jp/jp/information/joho/pdf/gyoumu_jisseki/gyoumu-jisseki\(h18\).pdf](http://www.osaka-u.ac.jp/jp/information/joho/pdf/gyoumu_jisseki/gyoumu-jisseki(h18).pdf)

同報告書における大学業務運営等に関する自己評価

項 目	年度 計画数	進行状況（自己評価）			
		IV	III	II	I
I (1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標	48	4	44	0	
1 運営体制の改善に関する目標 No.164)～178)	15	0	15	0	
2 教育研究組織の見直しに関する目標 No.179)～184)	6	0	6	0	
3 人事の適正化に関する目標 No.185)～204)	21	4	17	0	
4 事務等の効率化・合理化に関する目標 No.205)～210)	6	0	6	0	
I (2) 財務内容の改善	16	2	14	0	
1 外部資金その他の自己収入の増加に関する目標 No.211)～219)	9	1	8	0	
2 経費の抑制に関する目標 No.220)～223)	4	0	4	0	
3 資金の運用管理の改善に関する目標 No.224)～226)	3	1	2	0	
I (3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供	12	2	10	0	
1 評価の充実に関する目標 No.227)～234)	8	2	6	0	
2 情報公開等の推進に関する目標 No.235)～238)	4	0	4	0	
I (4) その他業務運営に関する重要目標	31	3	28	0	
1 施設設備の整備等に関する目標 No.239)～258)	19	1	18	0	
2 安全・衛生管理に関する目標 No.259)～270)	12	2	10	0	
合 計	107	11	96	0	
自己評価					
IV 年度計画を上回って実施している		II 年度計画を十分に実施できていない			
III 年度計画を順調に実施している		I 年度計画を実施していない			

国立大学法人の中期目標期間評価（暫定評価）への対応

6月12日の評価委員会及び6月20日の部局長会議において説明し、平成19年6月25日付け評価・広報室長名で「暫定評価（平成20年度に行われる評価）について」として、現況分析単位となる関係部局長あて、平成19年12月末を目処に原案を提出いただくことを依頼しました。

各部局において、作成要領等について質問等がありましたら、「暫定評価－「現況調査」に関する質問事項票」により、総務部評価・広報課あて随時ご照会ください。共通的な質問は、Q & Aにして学内ホームページに掲載します。

在阪報道各社との懇談会開催

7月23日（月）に在阪報道各社との懇談会を中之島センターで開催しました。この懇談会は、本学の最新の教育・研究活動について情報発信するとともに、報道関係者との意見交換を目的として毎年開催されているものです。

なお、詳細は、38ページに掲載しています。



財務・会計室

平成18年度決算

平成18年度の決算を行い、文部科学省へ財務諸表を提出しました。提出した財務諸表は、国立大学法人評価委員会の意見を聴き、文部科学大臣が承認を行うこととされており、本学の財務諸表についてはその承認を受けた後、公表する予定です。

効率的な資金運用

資金運用ワーキング・グループでは、資金需要を考慮した適切な運用金額、運用期間及び運用形態を検討し、長期・短期の資金運用の組み合わせによる効率的な余裕資金の運用を行なっています。今年度においても新たな短期資金運用計画を策定し、運用を始めました。

平成19年度教育研究等重点推進経費の執行計画

「教育研究等重点推進経費」の第2次執行計画案が役員会で承認されました。今回は保育所の整備のほか、大阪外国語大学との統合に伴う諸整備を中心とした執行計画となっています。

採択事業

部 局 名 等	事 項 名
総合計画室（総務部・施設部）	「新たけのこ保育園」建設費
知的財産本部（研究推進・国際部）	知的財産の訴訟に伴う経費
教育研究専門部会（学生部）	大学案内冊子作成費
教育研究専門部会（学生部）	連絡バス用バス停等設置費
教育研究専門部会（附属図書館）	学生用図書の整備経費
教育研究専門部会（大学教育実践センター）	イ号館女子トイレ新設
評価専門部会（総務部）	ホームページの更新
情報基盤専門部会（情報推進部）	学務情報システム追加ライセンス
情報基盤専門部会（情報推進部）	学務情報システムカスタマイズ費用
情報基盤専門部会（情報推進部）	学務情報システム統合支援業務
情報基盤専門部会（情報推進部）	自動証明書発行機カスタマイズ費用
情報基盤専門部会（情報推進部）	ネットワーク機器の構築及び保守費用
情報基盤専門部会（情報推進部）	図書館システム統合経費
情報基盤専門部会（情報推進部）	DeepMail追加ライセンス
情報基盤専門部会（情報推進部）	認証システムサーバ及びネットワーク機器整備
情報基盤専門部会（情報推進部）	認証システムサーバ共通機器の機能強化
情報基盤専門部会（情報推進部）	CAシステム追加構築費
情報基盤専門部会（情報推進部）	財務会計システム統合サポート経費
情報基盤専門部会（情報推進部）	事務情報システム追加ライセンス
情報基盤専門部会（情報推進部）	人事給与システム追加ライセンス
情報基盤専門部会（情報推進部）	共済組合システムサーバ更新
情報基盤専門部会（情報推進部）	共済システムデータ統合処理経費
執行計画額	合計 345,726千円

人事労務室

教員の高齢者雇用

教員の高齢者雇用について、平成16年6月11日公布の高齢者等の雇用の安定等に関する法律の一部を改正する法律への対応のため、本学としては、高齢者の雇用の確保、人事の活性化及び適正な人件費管理のバランスを図る観点から、職員と同様、教員も再雇用制度を導入することとし、再雇用制度の具体的な内容を今後更に検討することとしております。

再雇用の年齢の期限については、同法に定める平成18年4月1日施行の雇用確保措置の年齢に応じて段階的に引き上げる予定です。

63歳定年教員の定年退職年度	再雇用の年齢の期限
平成22～23年度	64歳
平成24年度～	65歳

国際交流推進本部

国際交流推進本部 3年余の活動を顧みて

世界では今、大学の国際交流が非常な勢いで進み、高等教育は一国の中に限定されたものではなく、各国の学生が国境を越えて移動し、大学の海外進出も目新しいものではなくなっている。ヨーロッパの大学では、ボローニャ・プロセスやエラスムス・プログラム等のもとに域内大学間の単位互換が進み、学生の移動性が高まっている。ハーバード大学では学部学生の半数以上が、大学教育の一環として、在学中に意味のある国際経験を持つことを選択しているといわれる。中国や韓国の大学の国際性の進展も著しい。

こうした動きの中であって、大阪大学は、国立大学法人になった2004年4月に、国際交流推進本部を設置した。国際交流推進本部は、これまで各部局中心で行われてきた国際交流を総覧し、全学的な視点から国際交流を促進しようとするものである。そこで、2005年12月に「大阪大学における国際交流戦略」を作った。大阪大学は、これまでの研究・教育の実績を発展させ、「世界に開かれた魅力ある大学」を国際交流の目標とする。大学における研究・教育の成果は人類全体によって享受されるべきものであり、その意味で大学は国際公共財である。大学が人類全体に奉仕するためには何よりも「世界に開かれた魅力ある大学」でなければならないし、また、「世界に開かれた魅力ある大学」であってこそ、世界各地から人材が集まり、研究・教育の発展と国際社会への貢献が可能となるであろう。

そして、「世界に開かれた魅力ある大学」の実現のために、

1. 海外の研究者・研究機関との連携促進と、研究成果の世界への発信
 2. 国際社会でコミュニケーションし、創造的・建設的に行動できる人材の育成
 3. アジア地域における共同研究コミュニティ構築による国際貢献
- を行っていく。

大阪大学の国際交流のユニークなものに海外教育研究センターがある。2004年に米国のサンフランシスコに、2005年にオランダのグローニンゲンに、2006年にタイ国のバンコクにそれぞれ教育研究センターが開設された。これらのセンターは、上に掲げた「世界に開かれた魅力ある大学」の実現に貢献しようとするものである。すなわち、研究者・研究機関との連携や研究成果の発信、および国際的人材の育成とともに、それぞれの地域における大阪大学のプレゼンスを高めることを目指す。大阪大学のプレゼンスを高めることは、また、研究・教育面での交流の推進に資するであろう。くわえて、バンコク・センターにはアジアにおける共同研究コミュニティの構築が課せられている。

研究交流・研究成果の発信には、毎年行われる「大阪大学フォーラム」がある。2006年にはサンフランシスコ教育研究センター支援のもとで、米国カリフォルニア州のサンディエゴで「Frontier of Biomedical Research and Beyond」のテーマで、2007年にはグローニンゲンで「Frontiers of Economics and Its Applications」のテ

まで「大阪大学フォーラム」が行われた。そのほかにも、サンフランシスコで「Earthquake Hazards around the Pacific Rim」、バンコクで「The Frontiers of Industrial Biotechnology for the 21st Century」のシンポジウムを行った。こうしたシンポジウムのほかに、グローニンゲン大学を通じて、複数のエラスムス・ムンドス・プログラムへの参加を目指した動きが進行しつつある。このプログラムへの参加が実現すれば、EU 諸国の大学との交流が進展するであろう。

教育面では、大学教育実践センターと協力してサンフランシスコ・センターから遠隔教育を、第1学期には「世界は今—サンフランシスコから」、第2学期には「Academic World - Insights from American Universities: 学問のすすめ—米国の大学のキャンパスから」を開講し、講師と学生の間で積極的な質疑応答が行われた。こうした遠隔講義は、学生の留学意欲を高めるであろう。またアメリカ西海岸で行われる理工系大学院生の工学英語を中心とした夏期研修やグローニンゲン大学短期訪問プログラムの実施には、サンフランシスコやグローニンゲンの教育研究センターの存在が欠かせない。さらに、海外教育研究センターを足がかりにして、大阪大学北米地区同窓会や Thai Osaka University Alumni Club が結成された。また、大阪大学サンフランシスコ・センターの主導で、サンフランシスコ地域に海外拠点をもつ日本の大学のネットワークである JUNBA (Japanese University Network in Bay Area) が作られた。これは、ひとり大阪大学だけでなく、日本の大学全体のプレゼンスを高めることが大事だと考えるからである。

留学生の受入れと阪大生の海外留学も大学の国際交流にとって重要である。阪大生の海外交流を促進するために大阪大学独自の奨学制度を作った。これには、大学院学生や学部学生の研究留学・交換留学に対する助成のほか、大阪大学が作った海外でのプログラムに参加する学生に対するものや、学生のグループが自主的にアイデアを出して海外の大学に出向いて研究活動に行うものに対する援助もある。COE プログラムなどで、短期に海外での学会に参加する学生は増えてきたものの、交流協定大学への留学がそれほど伸びていない。ただ、この10月には大阪外国語大学との統合がある。現外大では海外に留学する学生の比率が高く、留学先も現阪大生とは趣を異にする。統合後、新生大阪大学学生の留学地図が新しくなると期待される。

海外から多くの留学生や研究者に来てもらうためには、受入れ環境の整備が重要である。そのため、来日前や来日直後に直面するヴィザ申請手続や宿舎の斡旋を一ヵ所で行うワンストップ・サービス・オフィスの設置を検討してきた。まもなく開設の運びとなっている。このオフィスができれば、留学生や研究者にとって便利であるだけでなく、直接関係する教職員の負担を軽減できるであろう。また、大阪大学には GCN Osaka というオンライン上で、留学生・研究者に医療ガイダンスや住宅情報の提供を行うシステムがある。これをワンストップ・サービス・オフィスと結び付けて充実していきたい。

大阪大学は、アジアの研究コミュニティ構築の長い歴史を持っている。1973年から生物工学交流センターが中心となり、タイ国のマヒドン大学などと協力してユネスコ微生物学大学院研修講座を行ってきた。その後、ユネスコ・バイオテクノロジー国際大学院研修講座として今日まで続いている。この間、400名以上の研修修了者を出し、その多くはアジアにおけるこの分野での有力研究者になっている。微生物病分野でのタイ国との交流も長く、1962年のバンコクにおけるヴィールス研究所の設立に対する協力にさかのぼる。今回、バンコクに教育研究センターを設置したのは、2005年に微生物病研究所がタイ国立予防研究所と共同して、同研究所内に作った「新興・再興感染症に関する日・泰共同研究センター」に対する支援もある。また、中国の上海交通大学とは1995年から交互に「大阪大学—上海交通大学 学術交流セミナー」を開いてきていて、中国との関係も深い。

2005年に文部科学省から国際戦略本部強化事業に採択されたのを機に、国際交流推進本部の下に、国際企画室を作った。先にも書いたとおり、これまでの阪大の国際交流が、ともすれば教員個人あるいは個別部局によるところが大きかったのに対して、国際企画室は、国際交流に全学としての方向性を与え、戦略性を高めようとするものである。国際交流推進本部長が指名した室長のもとに、専任教員、兼任教員、研究員を含めた合計7名で活動し、これまでに数々の調査レポートを作成し、施策の企画と提案を行っている。活動内容は高等教育のグローバル化や国内外の大学国際化の動向調査から、大阪大学の部局レベルの国際交流に関する情報収集と戦略的な活用、学術論文にみる国際共同研究の現状、留学生数減少の原因分析や英語による授業提供の現状等の調査、世界大学ランキングを行う機関に対して本学が公正な評価を受けるための対応・働きかけ、各種ワーキング・グループへの協力等、多岐にわたる。このような調査・企画・コーディネートにより、国際交流推進本部の具体的な施策立案機能は飛躍的に高められたといえる。

国際交流推進本部ができて3年余になる。振り返って感じることは、国際交流の実績が目に見える形で出てくるのには時間がかかるということである。その重要性に鑑み、国際交流に対して、長い目で見てのご理解とご支援をお願いするものである。

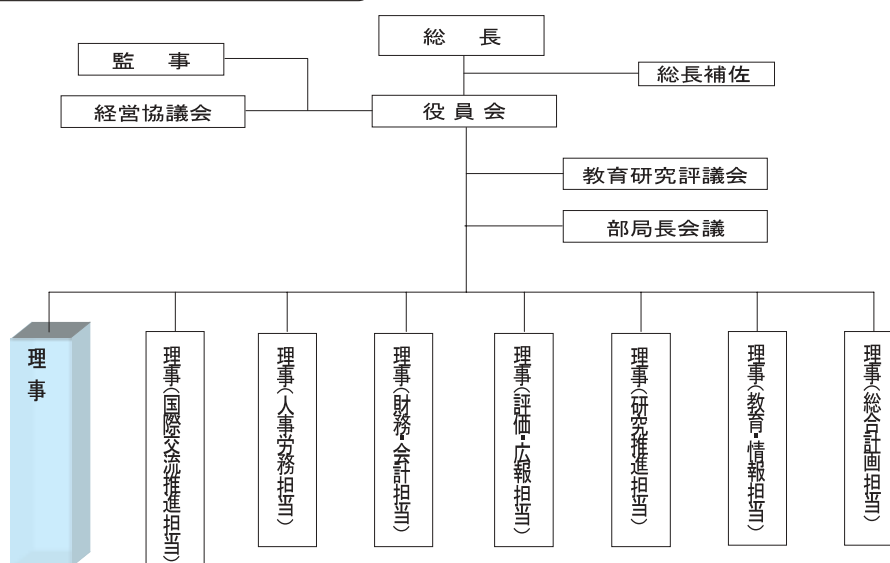
大阪大学は新しく生まれ変わります

vol.4 (最終)

今号は、10月からの組織運営体制について紹介します。

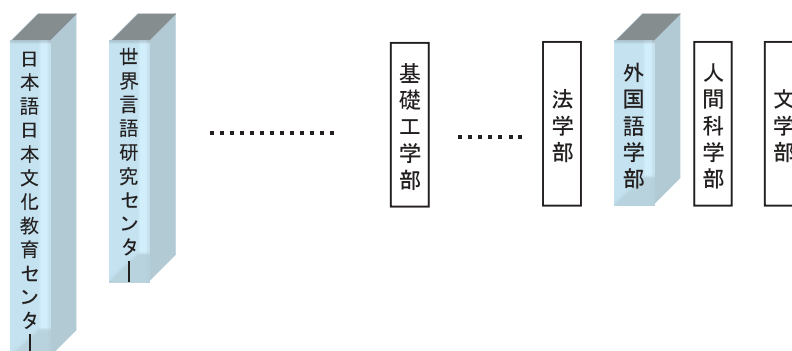
■ 執行体制

理事が1名増え、8名体制となります。



■ 教育研究評議会、部局長会議

教育研究組織が新たに設置されることにより、当該部局長が構成員に加わります。



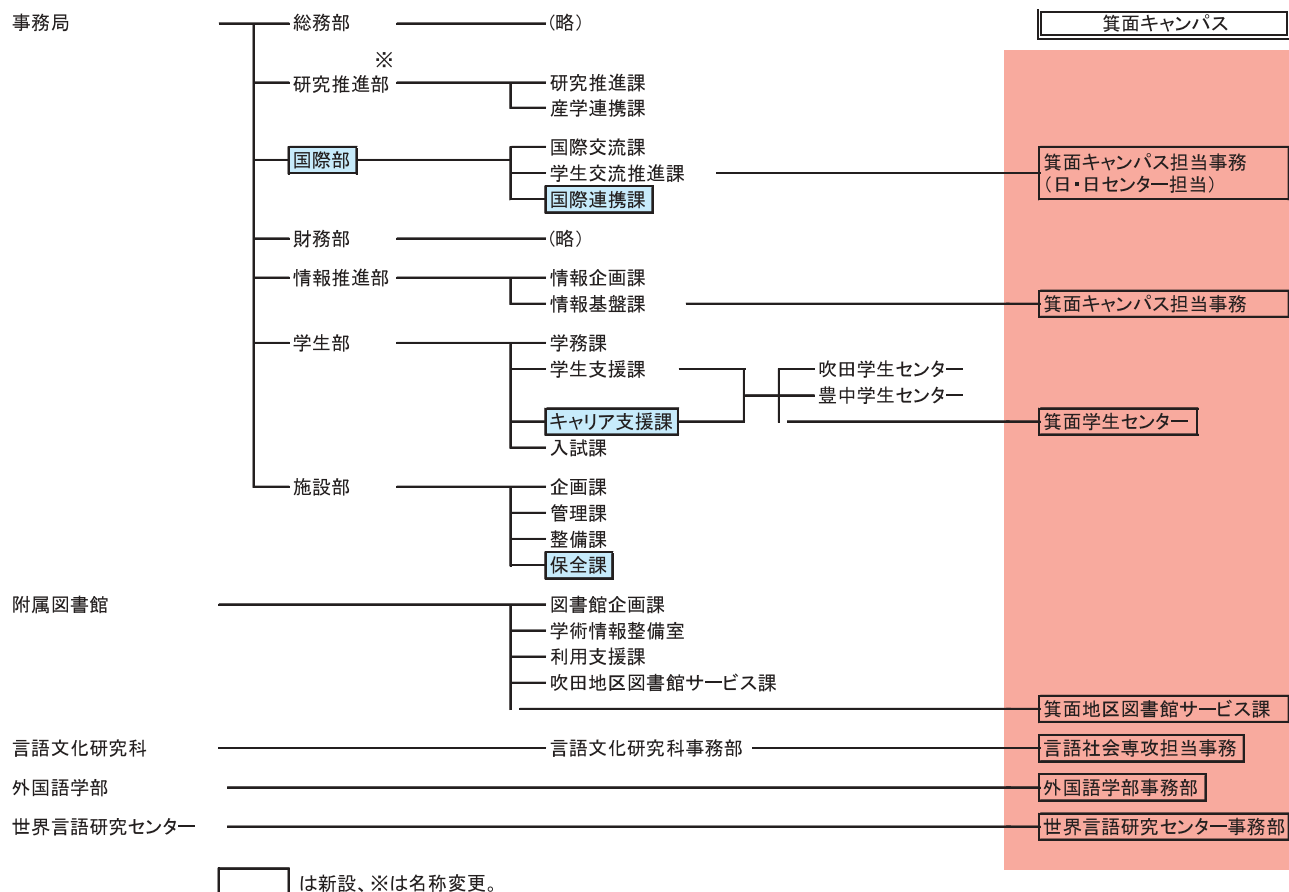
新設部局長 (予定)

- ◇ 外国語学部長 (予定)
現大阪外国語大学
外国語学部地域文化学科
杉本孝司 教授
- ◇ 世界言語研究センター長 (予定)
現大阪外国語大学
外国語学部地域文化学科
高橋 明 教授
- ◇ 日本語日本文化教育センター長(予定)
現大阪外国語大学
日本語日本文化教育センター
奥西峻介 教授

役員室だより(大阪外国語大学との統合)

■ 事務組織

統合後の業務を円滑に実施するため、事務組織が改編されます。



平成18年3月23日の大学統合推進合意書締結(写真)から約1年半で、統合に向けての協議・準備がほぼ整いました。

両大学の構成員のみなさまのご理解とご協力、さらには関係者の方々のご支援に対し厚くお礼申し上げます。

総 長 鷲 田 清 一



次世代に繋ぐ
女性研究者サポート連鎖

〈プログラムのロゴマーク〉
多様な能力や個性をもった人材で構成される
阪大キャンパスを象徴し、清新な色遣いで
次世代に繋ぐサポート連鎖を表現しました。

多様な人材活用推進委員会と女性研究者支援

多様な人材活用推進委員会委員長 沖田 知子(言語文化研究科教授)

多様な人材活用推進委員会は、大阪大学の教育・研究における質の向上のため、女性をはじめとする多様な人材が潜在能力を十分に発揮することができるようなキャンパスづくりをめざします。

◆ 女性研究者キャリア・デザインラボ

大阪大学における女性研究者の支援を行うセクションが、吹田地区本部福利厚生施設（レストラン匠の2階）に新設されました。研究面の支援として、「研究支援員制度」を実施し、学内の女性研究者のネットワークを構築して情報や問題の共有化を図るとともに、女性のキャリア・デザインに関して地域連携型学際融合研究を推進し、その成果を発信していきます。

女性研究者キャリア・デザインラボ

室 長	沖 田 知 子 教授(言文) (多様な人材活用推進委員会委員長)
副室長	田 島 節 子 教授(理)
副室長	藤 原 康 文 教授(工)
特任教員	渡 辺 めぐみ(特任准教授(常勤))
室 員	若干名(部局長が推薦する本学専任教員のうちから室長が指名)
事務補佐員	岡 野 友規子

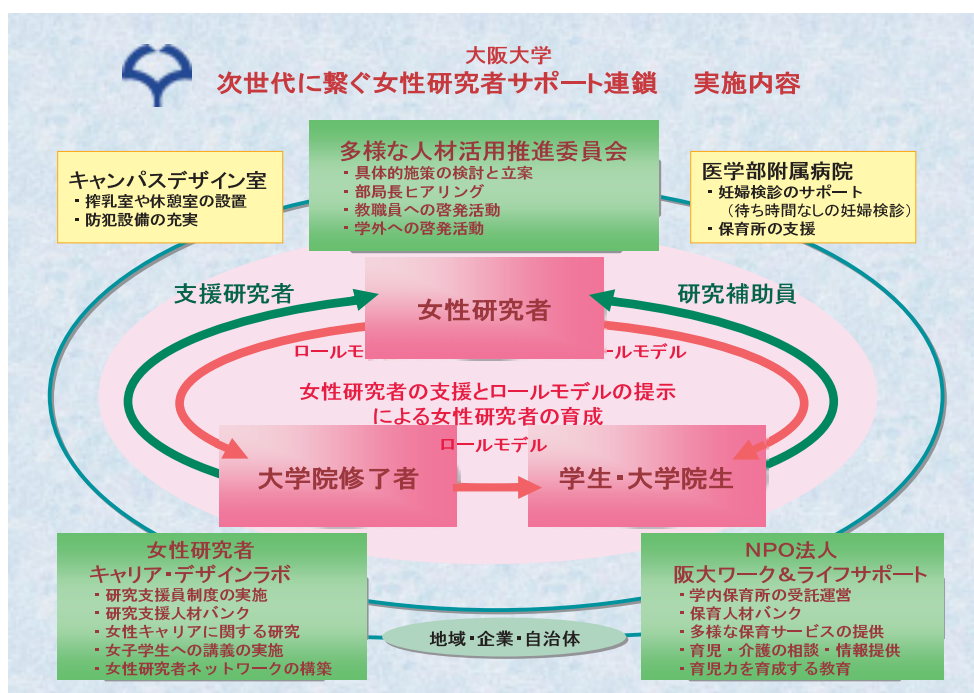
(連絡先) TEL: 内線4405または9573

FAX: 内線4406

E-mail: kyariadl@ns.jim.osaka-u.ac.jp

◆ 次世代に繋ぐ女性研究者サポート連鎖

平成19年度科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成」として採択されたプログラムです。女性研究者が、出産・育児・介護等でキャリア継続を断念することがないよう、研究面・生活面・医療面・環境面などから多面的に支援を行います。なお、一方通行の支援ではなく、支援を受ける女性研究者にもロールモデルやメンターとしての役割を果たしてもらうことで、次世代研究者とのサポート連鎖の形成をめざします。



◆ 研究支援制度

研究支援制度は、女性研究者と次世代人材をともに育てる制度として新設されました。出産・育児・介護等で研究時間の確保が難しい女性研究者に対して、院修了者や学部卒業生・在学学生を「支援研究者」や「研究補佐員」として雇用・配置し、その研究支援を行います。研究支援を受けたい人や、研究支援を通じて訓練をうけたい人のご応募をお待ちしています。

※研究支援員募集の詳細な内容については、公式ホームページ「NEWS」欄の「科学技術振興調整費による「研究支援員制度」を実施します」(<http://www.osaka.ac.jp/jp/press/newtopics.html#article527>)に掲載しています。

☆多様な人材活用推進委員会は、大阪大学の数ある委員会の中で初めて、委員会専用のホームページを9月に開設します。「研究支援制度」への応募受付は委員会ホームページにて行う予定です。

※上記の問い合わせ先：大阪大学 女性研究者キャリア・デザインラボ（内線 4405）

研究支援利用者募集

対 象：出産・育児・介護等で研究時間が確保しにくい女性研究者
支援内容：院修了者・学部卒業生・在学学生を「研究支援員」として配置
支援期間：平成19年11月1日～平成20年3月31日
支援人数：11名程度
応募方法：多様な人材活用推進委員会ホームページ（9月開設予定）から応募してください
応募期間：平成19年9月3日（月）～平成19年9月21日（金）（期日厳守）

研究支援員募集

対 象：院修了者・学部卒業生・在学学生
業務内容：女性研究者に対する研究支援
採用期間：平成19年11月1日～平成20年3月31日
採用人数：11名程度
応募方法：多様な人材活用推進委員会ホームページ（9月開設予定）から応募してください
登録期間：平成19年9月3日（月）から随時

◆ 学内保育所の新設

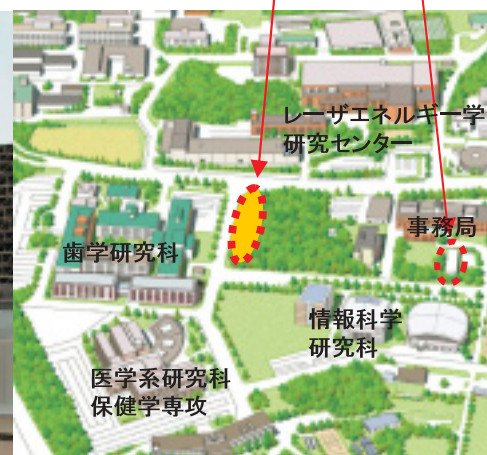
学内保育所の建設計画に関連して、その建設費が本年度の教育研究等重点経費で措置されることになりました。保育施設ができると同時に、委員会が推進する「女性研究者の仕事と育児の両立支援」を具体化することができます。

来年の4月開園予定で、業務・運営は、NPO法人阪大ワーク&ライフサポートが行う予定です。

※11月には、委員会のホームページ上で、来年4月からの入園希望を受け付けます。



学内保育所（模型）



おきた・ともこ

昭和53年大阪大学文学部助手、昭和57年医療技術短期大学部、平成5年言語文化部を経て、平成12年4月言語文化部教授。平成17年4月より大学院言語文化研究科教授。

プロフィール

メキシコ合衆国先住民の重度顔面裂奇形患者の慈善治療完了

歯学部附属病院第一口腔外科の古郷幹彦教授は、メキシコ合衆国チアパス州の山岳部に住んでいる先住民（マヤ民族）の患者の来日手術・治療を完了しました。古郷教授をチーフとする第一口腔外科口唇口蓋裂治療班は、国内屈指の口唇裂手術、口蓋裂手術の治療実績を有する専門医療機関ですが、今回の患者は顔面裂奇形の中でも極めてまれな、口蓋裂を伴う両側性斜顔面裂で、上唇から眼にかけて、さらに口蓋（うわあご）の皮膚・粘膜が癒合せず、裂（さけめ）として生まれてきた男児でした。手術で形態や筋肉をととのえなければ口腔機能である嚥下、咀嚼、発音に障害が残り、視力障害や審美的にも極めて問題を有することとなる病気です。さらに、その手術は極めて困難であり、眼科治療など複数科にわたる治療が必要であるため、今回の来日のうえ治療を行う慈善治療を行いました。

古郷教授らは平成11年よりメキシコ合衆国南部山岳地帯にすむ先住民（インディヘナ）の口唇口蓋裂に対する医療援助活動を行い、平成16年からJICA事業に発展しました。今回の患者もJICA活動の際に診察した患者です。第1回の治療として、平成18年3月に来日し両側の斜顔面裂形成手術を行い、退院後は、当教室スタッフがメキシコでの活動の際、経過観察を行い、第2回治療は平成19年4月に再来日のうえ、口蓋形成手術を行いました。右眼は先天性の小眼球症で失明しているため、審美的な改善目的にプロテーゼ（義眼）を作製することもできました。平成19年5月5日（土）、手術後の経過良好で、プロテーゼ装用



後も問題ないため退院・帰国となりました。患児の母親、付き添いの現地主治医も治療に満足されて笑顔で帰国されました。今後も、当教室スタッフがメキシコで医療ボランティア活動を行う際に、定期的に経過観察する予定です。

本患者の治療に際し、眼科疾患の診察、治療をいただいた医学部附属病院眼科の松下賢治先生、小児科の難波範行先生、プロテーゼの作製をいただいた（株）カジヤマプロテーゼの皆様へ深謝いたします。さらに来日費用、滞在費用は、当教室や病院スタッフからの募金以外にも、多くの一般の方から集まった善意の寄付から支払うことができました。多くの方のご支援でこの慈善治療ができた事に、あらためて感謝いたします。

（歯学部附属病院）

薬学研究科「平成19年度第1回FD研修会」開催

薬学研究科では、5月12日（土）に平成19年度第1回FD研修会を開催しました。本研修会は、平成18年度から始まった薬科学科（4年制）と薬学科（6年制）の併置による新薬学部教育体制の充実と発展に向けて、教員間の情報の共有と意識の統一を図ることを目的とするものであり、



グループ討論

今回は助教を主な対象として実施しました。

第1部の「大阪大学薬学研究科における教育制度改革」では、山元 弘研究科長から制度改革の背景や全国的な動向について説明があり、続いて共用試験や長期実務実習の準備状況、特別教育研究経費による教育プログラムの実施状況について、担当教員から紹介がありました。第2部の「教育効果を高めるための適正な評価方法」では、金沢大学薬学部の向 智里教授から、「厳格な成績評価を行うために」と題した講演があり、金沢大学での教育評価に関する様々な取り組みを紹介いただきました。また、小グループ討論による教育評価に関する問題点抽出とその対応案の策定も行いました。

本研修会については、薬学研究科における教育研究の充実・発展に資するべく、今後もFDにふさわしい課題を設定して定期的に実施する予定です。

（薬学研究科・薬学部）

薬学部・薬学研究科外国人留学生等歓迎パーティー開催

平成19年度薬学部・薬学研究科外国人留学生等歓迎パーティーが、5月15日(木)薬学研究科2号館セミナー室において、約60名の参加を得て開催されました。

パーティーは山元 弘薬学研究科長の開会挨拶、今西武教授の発声による乾杯で始められ、外国人留学生、外国人研究員の中に、多くの教員、学生が加わり、留学生間の交歓とともに、留学生にとって日頃接する機会の少ない他分野の教員、学生と懇談する良い機会となりました。

留学生、研究員の出身国は、中国、タイ、コンゴ、パングラディッシュと様々でしたが、自己紹介の際には流暢な日本語で、学業・研究に対する抱負を語り、拍手喝采が送られました。終始、楽しい雰囲気の中で懇親を深め、藤尾慈准教授による閉会挨拶の後に名残を惜しみつつ散会となりました。

(薬学研究科・薬学部)



歯学部附属病院で「ふれあい看護体験」実施

歯学部附属病院では、5月17日(木)と18日(金)に『看護の日のイベント』を、22日(火)に『ふれあい看護体験』を実施しました。

『看護の日のイベント』では患者さんにやすらぎのひとつを感じていただくため、看護師達が日頃、勤務の合間に作った絵手紙、パッチワーク、ハワイアンキルト、粘土細工や生け花等の作品を多数、1階待合ロビーに展示しました。患者さんからは、作品を眺めながら「ほっとする」や「なごむ」との声が聞かれました。

また、『ふれあい看護体験』は5月から新しくなった中央病棟で行われ、参加者は、入院患者のベッド作りや手術室までの搬送、また、談話や洗髪、清拭、経管流動食の準備、食事の配膳、病院食の試食等を体験しました。参加者からは、「日頃見学できない患者さんの処置など見学させてもらい、歯学部附属病院の入院患者さんの痛みがわかった」また、「入院している子どもたちと一緒に遊ぶことができて心がなごんだ」という感想をいただきました。

(歯学部附属病院)



基礎工学研究科ーベトナム科学技術アカデミー修士課程ジョイントプログラム 開講式開催

5月24日(木)に、ハノイにあるベトナム科学技術アカデミー(VAST)の物質科学研究所(IMS)において、基礎工学研究科ーベトナム科学技術アカデミー修士課程ジョイントプログラムの開講式が行われました。これは、ベトナム教育訓練省(MOET)によって選ばれたベトナム政府奨学生を本研究科の修士課程に受け入れ、阪大側が提供する物質科学・ナノサイエンスを中心とするカリキュラムに沿って、高度な教育と研究指導を行うものです。双方に指導教員が置かれ、奨学生は、修士課程の前半をVAST-IMSお



主な来賓者

よびベトナム国家大学ハノイ校で、後半は来日して研究設備の整った本研究科で、専門的知識と技術を修得します。外国人留学生にとって日本語による講義は大きな障害となりますが、本研究科では必要な大学院科目の講義を英語で行うカリキュラム(英語コース)を用意しており、今回はそれを活用しています。

開講式では、IMS 所長、VAST 副総裁、VAST 理事、国家大学ハノイ校工学部副部長、MOET 国際訓練プロジェクト主任から挨拶があり、物質科学分野における若手研究者の育成を通じて、当該分野の産業基盤の確立につながる本プログラムに対して、ベトナム側から大きな期待が寄せられました。本研究科からは、本プログラムの総括責任者である副研究科長の伊藤 正教授(物質創成専攻)を含め3名が参加し、今後の具体的なスケジュールについて協議するとともに、現地の視察、本プログラムの広報活動、来日予定の奨学生の指導等を行いました。昨年度の秋からは、やはり双方に指導教員を置く博士課程(PhD)サンドイッチプログラムも始まっており、これと有機的に連携し、アジア諸国との国際協力の一環として、ベトナムの若手人材育成活動に持続的に協力できるものと期待されます。

(基礎工学研究科・基礎工学部)

CIC大学説明会に参加

5月27日(日)、大阪大学東京オフィス(略称OS@T、オーサット)のある東京・田町駅前のキャンパス・イノベーションセンター(以下東京CIC)において、全国19大学が参加して「CIC大学説明会」が開催されました。本学からは大学院基礎工学研究科・基礎工学部と大学院国際公共政策研究科が参加し、それぞれ伊藤 正教授と野村美明教授が出席しました。ブースには18名の高校生が来場し、阪大の学部内容や入試、オープンキャンパスなどについて熱心に質問していました。

また、同時に本学特色GP「大学対抗交渉コンペティション」の紹介・ポスター掲示、及び学際横断教育「ナノプログラム」の紹介も行いました。

OS@Tは社会人向け遠隔講義やシンポジウムを開催する等、阪大のサテライト機能を果たしていますが、更なる発展のためにはオフィス機能を一層充実させることがポイントとなります。

OS@Tは、阪大の情報発信や全学同窓会連合会の活動、遠隔会議システムによる授業に活用可能です。伊丹空港か



ら2時間の田町駅前で、入居者割引料金で気軽に同時通訳付きの国際会議や研究集会を開催できるのも魅力です。

OS@T ホームページ

<http://www.osipp.osaka-u.ac.jp/tokyooffice/index.htm>

(基礎工学研究科・基礎工学部、国際公共政策研究科)

平成19年度医学部御遺骨返還式実施

6月1日(金)医学部共通棟3階大会議室において、御遺骨返還式がしめやかに執り行われました。

この式典は、毎年行われているものであり、系統解剖のために篤志団体である大阪大学白菊会から献体をいただき、医学部学生が平成18年度中に解剖させていただいた方々の御遺骨を御遺族にお返しする行事で、今回で第81回を迎えました。

当日は、晴天のなか約40名の御遺族が出席され、医学部からは遠山正彌学部長をはじめ、解剖学教室の関係教員、八幡親明白菊会会長等が出席されました。

式典は、まず献体者の方々の御霊に対して参列者全員が黙祷を捧げた後、遠山学部長から献体者の尊い御意志と御

遺族の深い御理解に対して深く感謝を申し上げる旨の挨拶がありました。続いて、20名分の御遺骨が遠山学部長から御遺族一人ひとりに返還され、併せて八幡白菊会会長から御供物が手渡されました。最後に、解剖学教室を代表して、細胞生物学講座(旧解剖学第三講座)の米田悦啓教授からお礼の言葉が述べられ、滞りなく御遺骨返還式は終了しました。

なお、式典終了後、御遺族及び医学部関係教職員がそろって吹田キャンパス内にある「大阪大学医学部・歯学部献体慰霊碑」に献花を行い、献体者の御冥福をお祈りして散会しました。

(医学系研究科・医学部)



第2回国立大学保健医療学系代表者協議会開催

第2回(平成19年)国立大学保健医療学系代表者協議会が6月4日(月)、医学部保健学科の当番により千里阪急

ホテルで開催されました。

この協議会には、文部科学省からは渡部廉弘医学教育課課長補佐、和住淑子看護教育専門官の出席を得、全国43の国立大学保健医療学系の代表者ら100名余が出席しました。

冒頭、大和谷 厚医学部保健学科長の挨拶があった後、同学科長が議長に選出されました。

議事に先立ち、渡部課長補佐から「わが国における高等教育を取り巻く状況と貴協議会への期待」と題して講演がありました。続いて、「保健医療学系の教育体制を学部レベルに引き上げる可能性について」、「保健医療学系大学院の教育のあり方について」、「国家試験合格の早期公表について」など保健医療学教育を取り巻く緊急かつ急務の諸問題について活発な意見交換が行われました。

(医学系研究科・医学部)



講演する渡部課長補佐

平成19年度大阪大学主任研修実施

平成19年度大阪大学主任研修が、6月6日(水)から8日(金)までの3日間にわたりコンベンションセンターで行われました。

本研修は、主任としてのその立場と役割を再認識し、マネジメントに関する理解を深めることなどを目的としており、32名が受講しました。

(株)富士ゼロックス総合教育研究所の専任セミナーリーダーである赤田正明講師により行われました。

受講生は、普段と異なる雰囲気の中、「後継者売り込み会議」「私の哲学」といった実習を、班別討議、全体発表を交えて行いました。討議を通じて互いを尊重しつつ、固定観念にとらわれず発想の転換へ適切に対応するなど、活発な意見交換が行われ、全員が意欲的に取り組みました。

研修最終日に「組織リーダーとしての能力開発計画表」の作成が行われ、各人が、現在の自分の課題、課題解決のためのスローガン、それを実現するための具体策を作成しました。計画表については、研修終了後、上司に報告しコメントをもらうよう講師から指示があり、自己啓発の一助



になるよう、受講生はその決意を固めていました。

本研修には、庶務・人事・会計・教務・医事など分野の異なる職員が受講しましたが、実習のほか、休憩時間などを通じて、お互いの親睦を深め合い、全員、所定の課程を無事修了しました。

(総務部人事課)

中国科学院訪日視察団一行来訪

6月7日(木)、中国科学院の江錦恒副院長を団長とする視察団(他6名)が本学を来訪し、鈴木 直理事・副学長、馬越佑吉理事・副学長、橋本日出男理事・国際交流推進本部長を表敬訪問しました。また、一行は、レーザーエネルギー学研究センター及び超高圧電子顕微鏡センターなどの施設を視察しました。

今回の訪問は、独立行政法人科学技術振興機構(JST)の招聘により日本各地の大学や企業の研究所等の見学等を目的としたもので、団員の朱健強氏と三間園興レーザーエネルギー学研究センター長が、これまで研究上のつながりが深いことから、同センターが訪問先として選ばれたものです。

なお、団長である江副院長は、元中国国家主席の江沢民氏のご子息でもあります。

江団長一行が到着した玄関ホールでは、同センター職員や中国からの留学生が出迎えました。特に中国人留学生からの熱烈的な歓迎を受け、談笑したり、気軽に記念撮影に迎えられ、和やかな雰囲気のもと、視察が開始されました。

応接室において三間センター長からセンターの詳細な説明を受けた後、展示室ではレーザーガラス、大型KDP結晶等を、その後、エアシャワーを浴びてから激光XⅡ号レーザー装置、LFEXレーザー装置とターゲット室の見学となりました。約90分にわたる見学中には、レーザー核融合研究に深い関心を示され、レーザーエネルギー学という分野に大きな期待を持っていることや、同センターの大型



レーザー装置技術に大きな関心を持っている様子がうかがえました。

レーザーエネルギー学研究センター視察の後、視察団は超高圧電子顕微鏡センターへ移動し、森 博太郎超高圧電子顕微鏡センター長の案内で、高さ13.5メートル、総重量140トンの電子顕微鏡を視察しました。

全ての視察が終了した後、学外において、大阪大学主催による晩餐会が開催されました。橋本理事・国際交流推進本部長の進行で、馬越理事・副学長の挨拶、主賓の江副院長の挨拶に続き、三間センター長による乾杯で華やかに始まり、窓から見える「太陽の塔」をバックに記念撮影するなど終始和やかな雰囲気の中で、情報交換とお互いの懇親が深められました。

(研究推進・国際部国際交流課、
レーザーエネルギー学研究センター)

科学教育機器リノベーションセンター設立除幕式開催

科学教育機器リノベーションセンター設立の除幕式が、6月8日(金)に豊中キャンパスにおいて行われました。科学教育機器リノベーションセンターは、本学における設備



整備計画に資するため、機械工作などの日常教育研究を支援し、教育・研究・医療機器のリユースと学内機器の共用利用を促進するほか、教育・研究機器の開発と実用化を目指し、新たな視点で資源の有効活用に取り組むことを目的としており、工作センターを発展改組して平成19年4月に設立されました。

本学のマスタープランにおいても、設備整備を含めた広域的視野での教育・研究環境の充実を強化するための重要なセンターとして位置づけられております。

除幕式には、鈴木 直理事・副学長(科学教育機器リノベーションセンター運営委員会委員長)、笠井俊夫センター長、中嶋英雄・石塚 守両副センター長のほか関係者多数が出席し、センターの発足を祝いました。

(研究推進・国際部研究推進課)

洪庵忌一適塾の夕べ開催

適塾を開いた緒方洪庵の命日である6月10日に、洪庵の遺業を偲ぶ催し「洪庵忌一適塾の夕べ」が、今年度も6月11日(月)午後4時から適塾1階客座敷において開催されました。

今回は、宮原秀夫総長、各部局長を始め適塾記念会役員



緒方講師



篠原講師

など関係者約20名の出席があり、当時の塾生が学んだ時と同じ雰囲気の中、緒方家から緒方惟之氏が『整形外科とこころ』と題して、また、篠原 厚大学院理学研究科教授が『新しい原子の創生ーエキゾチックアトムと超重元素の化学ー』と題してそれぞれ講演を行いました。

(総務部総務課)

名誉教授招待懇談会開催

本年度の名誉教授招待懇談会が、6月15日(金)、医学部銀杏会館において、90名の名誉教授の出席のもとに開催されました。

懇談会は宮原秀夫総長の挨拶で始まり、昨年秋の例会以降にご逝去された名誉教授の方々への黙祷が捧げられた後、今年度新たに名誉教授となられた方々の紹介が行われました。引き続き、今年度の春の叙勲を受けられた名誉教授の方々が紹介され、当日出席の瑞宝中綬章を受けられた島津忠夫名誉教授から挨拶がありました。

その後、宮原総長から「大阪大学の近況報告」として、キャンパスの整備状況、グローバルCOEプログラム等の



島津名誉教授



山賀名誉教授



採択状況、国際交流活動や社会連携活動の状況及び今年10月の大阪外国語大学との統合など本学の近況と、宮原総長が就任した平成15年8月から4年間の取組について報告されました。

続いて開かれた懇親会では、宮原総長による役員並びに部局長の紹介につづき、山賀禮一名誉教授の発声による乾杯の後、出席者はお互いの近況などを話題に旧交を温めながら、終始和やかな雰囲気の中で懇談が行われ、盛会のうちに終了しました。

(総務部総務課)

グローバルコラボレーションセンター開所式開催

本年4月に学内共同教育研究施設として設置されたグローバルコラボレーションセンター（GLOCOL）は、その開設を記念し、6月21日（木）に中之島センター佐治敬三ホールにおいて記念式典・記念講演を、また交流サロンにおいて祝賀会を開催しました。

記念式典・記念講演には、学内外から約130名の出席がありました。今田幸二郎研究推進・国際部長の司会により、宮原秀夫総長の開会挨拶に続いて、村田直樹文部科学省大臣官房審議官（高等教育担当）の来賓挨拶が行われました。鈴木直理事・副学長による設立経緯説明、小泉潤二グローバルコラボレーションセンター長によるセンター概要説明の後、松園万亀雄国立民族学博物館長から来賓祝辞がありました。



村田審議官の挨拶



カルロス・ロペス氏の記念講演

引き続き、スイス（ジュネーブ）のカルロス・ロペス国連事務次長補・UNITAR（国連訓練調査研究所）事務局長から、「グローバリゼーション下の人間と能力開発」と題する記念講演が行われました。最後に、鷲田清一理事・副学長の閉会挨拶により、盛会裏に終了しました。

祝賀会は、江藤靖弘国際交流課長の司会で進められ、高橋嘉行（独）国際協力機構（JICA）大阪センター所長の来賓挨拶、橋本日出男理事・国際交流推進本部長の発声による乾杯の後、終始和やかに歓談が行われ、辻毅一郎グローバルコラボレーションセンター特任教授の閉会の挨拶で終了しました。

（研究推進・国際部国際交流課）

三井造船「プラズマ応用工学」共同研究講座開設

6月22日（金）に、本学と三井造船株式会社はプラズマ応用工学に関する研究を目的とした「共同研究講座」開設の



協定書に署名する宮原総長（左）と元山代表取締役社長

契約を締結し、宮原秀夫総長と元山登雄代表取締役社長の出席のもと、本学において調印式が行われました。

今回設置する講座は、「プラズマ科学とその産業応用に関する研究」をテーマとし、具体的には、常圧でも、従来の方法より大幅に高効率なプラズマの生成技術、プラズマ化学、コンピューターシミュレーション技術などを用いて、新規の環境技術や成膜プロセス技術の開発を目指すものです。大阪大学の持つプラズマ物理化学の学術的基礎と、三井造船が備えている市場ニーズを把握した産業適用技術力を融合させることにより、製品技術課題の解決と将来技術基盤の構築を図るとともに、社会的ニーズに基づく新しい学術分野の創生に寄与できると考えています。

本学では平成18年4月に共同研究講座制度がスタートして以来、今回で8つの共同研究講座が設置され、それぞれ学内において企業と密接な共同研究を行っています。

（研究推進・国際部産学連携課）

大阪市及び池田市と連携協力に関する協定締結

6月6日(水)に、市民主導の創造都市づくりを進める大阪市と「連携協力に関する包括協定」を締結しました。調印式は、本学から宮原秀夫総長ほか関係理事が、大阪市から關淳一市長ほか関係役職員が出席して、大阪市役所において行われました。

今後は、協定に基づいて、連携協議会を設置し、「大阪」という名を共有するパートナーとして、「世界の中の大阪・大阪の中の世界」、「懷徳堂の精神を21世紀に」、「健やか一ひとづくり・まちづくり」などのテーマに沿った連携方策の検討を進めていくこととしています。



關市長（右）と宮原総長

6月26日(火)に、「小さくとも世界に誇れるまち」の実現をめざす池田市との間に協定を締結しました。調印式は、本学から宮原秀夫総長ほか関係理事が、池田市から倉田薫市長ほか関係役職員が出席して、本学において行われました。

本学の豊中キャンパスは、池田市に隣接しており、同キャンパスの最寄駅である石橋駅の周辺地域などにおいて、これまでから「衣食住」を通じた親密な関わりがありましたが、今回の協定締結を契機に教育・研究、国際交流及びまちづくりなどさまざまな分野において、より一層協力関係が深まっていくことが期待されています。

(総務部総務課)



倉田市長（右）と宮原総長

関西大学と学術交流に関する協定締結

6月11日(月)に、ともに吹田市にキャンパスを有しこれまでも教育・研究に関して幅広い分野に及ぶ交流により共存関係にあった関西大学と、教育及び学術研究を推進する上で必要とする分野での協力関係をより強化するため、「学術交流に関する協定」を締結しました。調印式は、本学から宮原秀夫総長ほか関係理事が、関西大学から河田悌一学長及び副学長が出席して、本学事務局において行われました。

このたびの協定締結を契機に、両大学間での共同研究、講義等の実施や研究者の交流、大学院及び学部在学生や社会人受講生の交流、授業における単位互換の実施などを目指した取り組みによる活性化などが期待されています。

(総務部総務課)



河田学長（右）と宮原総長

サステナビリティ・サイエンス研究機構がエコ・プロセスワークショップ開催

サステナビリティ・サイエンス研究機構（RISS）は6月25日(月)、学内でエコ・プロセスワークショップ「バイオマスのエネルギー転換技術が拓く持続可能社会の可能性」を開催しました。産官学の研究者を招き、最先端のバイオマス研究や産官学協力の研究の紹介を通じ、活発な議論を行うことを目的に実施され、約70名が参加しました。

経済産業省資源エネルギー庁新エネルギー対策課の伊藤隆庸課長補佐、東京大学大学院農学生命科学研究科の横山



伸也教授、神戸大学大学院自然科学研究科の福田秀樹教授、荏原製作所環境エネルギー技術室の三好敬久室長、銘建工業株式会社の中島浩一郎社長が環境への取組を紹介しました。

伊藤課長補佐は、国策の「バイオマス・ニッポン総合戦略」での先進的研究の重要性や、日本の高い環境技術を世界に示せる研究に補助を行っているとし、また、横山教授は、バイオマス・エネルギーの変換技術の特性や課題を体系的に説明し、下水汚泥など様々な廃棄物を再資源化する際、どの技術が適切か実験結果を通じ示しました。福田教授は、バイオエタノール製造の高速化の新技术について言及しました。

三好室長は、神奈川県袖ヶ浦市でのガス化プロセスの実証試験を紹介し、同プロセスを用い下水処理場をバイオマス・エネルギーの生産拠点に転化する可能性を説明し、一方、中島社長は、木材のペレット化での同エネルギー供給と地域社会のエネルギー需要をマッチングさせた企業活動の成果を示しました。

(サステナビリティ・サイエンス研究機構)

基礎工学研究科・基礎工学部本館等改修披露式典・祝賀会開催

基礎工学研究科・基礎工学部では、本館等の建物が築後40年を経過したため、耐震補強を伴う全面的な改修工事を進めてきましたが、このたび、平成18年度末に工事を完了したことを機に、6月26日(火)に改修披露式典、見学及び改修披露祝賀会を開催しました。

大学院基礎工学研究科・基礎工学部本館3階B300大講義室において開催された改修披露式典では、約90名が出席者して行われ、戸部義人教育研究評議員の司会により、西田正吾大学院基礎工学研究科長の式辞に続いて、宮原秀夫総長の挨拶があり、岡 誠一文部科学省大臣官房文教施設企画部技術参事官から舌津一良同文教施設企画部長の祝



辞の代読がありました。その後、伊藤 正大学院基礎工学研究科副研究科長から「基礎工学舎の今昔」と題しての説明がありました。

引き続き、本館等の見学が行われ、出席者は改修された建物各階の設備等を見学しました。

見学終了後、豊中キャンパスのレストラン宙（そら）で開かれた改修披露祝賀会では、戸部義人評議員、鷺田清一理事・副学長の挨拶、金田清臣基礎工学部同窓会会長の祝辞、そして、櫻井良文大阪大学名誉教授の発声による乾杯が行われ、学内外の来賓及び関係者が参加し、終始和やかな雰囲気の中で懇談が行われました。

(基礎工学研究科・基礎工学部)

平成19年度国立大学協会近畿地区支部・専門分野別研修（情報）実施

平成19年度国立大学協会近畿地区支部・専門分野別研修（情報）が、6月28日（木）にコンベンションセンターにおいて開催されました。

この研修は、情報化社会におけるIT改革や情報セキュリティ等に対する大学職員の意識及び基礎知識の向上を図ることを目的として開催され、82名（本学30名）が受講しました。

研修は、他大学や民間企業から4人の講師を迎え、中央省庁におけるIT改革の実態、大学の情報化・業務改革の実態や成功・失敗のポイント、情報セキュリティ等について、実際の事例も交えて、非常に具体的な講義が行われました。

講義終了後は、「省庁間の人事・給与・共済システムが一元化される時期はいつ頃か」「効率的な情報化の障害となる硬直した組織形態や調達方式を改革する特効薬はあるか」「補完システムを各部署で構築する時の各部署やユーザの権限管理はどうしたのか」「スパムメールの対応策で新しい技術は登場しているか」といった具体的な内容の質疑応答が行われました。また当日の受講者からは、「業務



改善やコスト削減等の改革の重要性を再認識した」「中央省庁や他大学の情報化についての情報を得て、自分自身の業務に活かせると思った」「大学の幹部職員が受講すれば、さらに有意義だ」「是非今後もこのような研修を継続して行って欲しい」など非常に有意義な研修であったとの感想が寄せられました。

（情報推進部情報企画課）

第7回大阪大学フォーラム開催

本学では、研究者の優れた研究活動等を広く海外に発信するため、毎年度1回テーマを厳選し、大阪大学フォーラムを開催しています。本年度は、6月28日（木）～6月30日（土）に、大阪大学グローニンゲン教育研究センターの協力を得て、グローニンゲン大学と共催でオランダ王国グローニンゲンにて、「Frontiers of Economics and Its Applications（新しい経済学の挑戦：理論と実証）」をテーマに開催しました。

このフォーラムは、本学の社会経済研究所、経済学研究



小町特命全権大使の講演

科、国際公共政策研究科、サステナビリティ・サイエンス研究機構、共催機関であるグローニンゲン大学の研究者、及びヨーロッパと日本の第一線の研究者により行われました。

最初の2日間は、基調講演及び、日蘭経済論、持続可能性の経済学、行動経済学、マクロ経済学、ミクロ経済学に関するセッションが実施され、活発な意見交換がなされました。一般参加者も対象とした3日目は、小町恭士在オランダ大使館特命全権大使ほか2名の特別講演者を迎え、日蘭交流400年にわたる歴史を踏まえた日本の今後の指針、世界経済を取り巻く環境、日本社会における人的資源育成、と幅広い内容の講演が行われました。

また、会期中には、大阪大学とグローニンゲン大学との大学間学術交流協定の更新を行ったほか、今後の両大学の交流についての意見交換の場も持たれました。

参加者は両大学関係者を中心に84名にのぼり、21世紀COEを含む大阪大学の経済学研究の成果とグローニンゲン大学の研究成果や情報を交換・共有し、今後の研究活動とその発信力をより一層高めることができました。また、今回のフォーラムの成功が、両大学の共同研究体制確立に向けた第一歩になったとの手応えが感じられました。

（研究推進・国際部国際交流課）

工学研究科と株式会社三菱化学科学技術研究センターが研究連携協定締結

工学研究科と三菱化学株式会社の100%出資会社である株式会社三菱化学科学技術研究センターとは、両者の研究者の相互交流を通じた研究連携の推進について合意し、7月2日（月）、本学において連携協定の調印式を執り行いました。調印式には、本学から豊田政男工学研究科長、馬場章夫副研究科長、神戸宣明社会連携室長が、三菱化学科学技術研究センターからは山本巖取締役社長、佐々木康之企画調整室長、中村友久情報戦略GMらが出席しました。

この協定は、共同研究・委託研究等の実施とこれに伴う研究者の交流、連携推進会議の開催などを通じ、異分野交流も含めた幅広い交流活動をより緊密に行うことにより、社会の求める新たな基礎研究分野の開拓、ならびに実用につながる学術研究の振興と研究成果の社会活用の促進を図るものです。

三菱化学株式会社は日本最大の総合化学会社であり、本学とは既に、触媒、高分子、エレクトロニクス、フォトンクス、環境、エネルギー分野などの分野で多くの研究交流



山本取締役社長（右）と握手する豊田研究科長

の実績がありますが、本連携契約により21世紀の社会を支える新技術の創成に向けて、両者の連携が更に深まるものと期待されます。

（工学研究科・工学部）

高等司法研究科がFD週間における授業見学会実施

高等司法研究科では、毎年、FD（ファカルティ・デベロップメント）活動のひとつとして、授業見学会を実施しています。授業見学会は、授業の担当教員が、当該授業を見学した他の教員の意見を聞いて、その授業方法を再検討するとともに、見学した教員の側も当該授業に照らして自



分の授業の方法を再検討することにより、相互に授業改善を図ることを目指すものです。

今年度は、教員のFD活動への意識を一層向上させるために、授業見学会の統一テーマを設け、集中的に行うことにしました。第1学期は、統一テーマを「知識の定着（固定）」とし、7月2日（月）から6日（金）までをFD週間として、各日1回、計5回の授業見学会を行いました。これに参加した教員は、延べ28名にも及びました。

授業見学会の授業の担当教員は、事前に当該授業で特に注意する点等を「授業見学会担当教員調査票」に記載し、参加教員は、この調査票に基づいて、「授業見学会参加教員報告書」を作成することになっています。FD週間の次の週に行われた教授会では、調査票及び報告書を配布し、教員全員で授業見学会のあり方等を議論しました。

第2学期も、FD週間において授業見学会を行うことにしていますが、教員がより参加しやすくするために、各日2回、計10回行う予定です。

（高等司法研究科）

大阪大学安全講演会開催

7月6日(金)にコンベンションセンター MO ホールにおいて、大阪大学安全講演会が開催されました。この講演会は、全国安全週間(7/1～7/7)にあわせて毎年開催されているものです。

太刀掛俊之安全衛生管理部助教からは、これまでの事故事例の分析に基づき、大学における事故発生メカニズムについて研究発表がありました。続いて、鈴木 直安全衛生管理部長(理事・副学長)からは、大阪大学における安全管理の取組と今後の課題について報告があり、参加者と活発な質疑応答が行われました。

(安全衛生管理部)



太刀掛助教

酸素欠乏事故防止講習会(豊中地区)実施

安全衛生管理部では、4月25日(水)理学部D棟501大講義室において、また、7月9日(月)基礎工学部国際棟(Σホール)において、酸素欠乏事故防止講習会を実施しました。

この講習会は、NMR、MRI等の超伝導磁石、大型のクライオスタットで液体窒素、液体ヘリウムを大量に取り扱う研究室において、新しく配属された学生及び本講習を未受講の教員を対象に酸素欠乏の危険性を理解し、事故防止や安全意識の向上に役立ててもらうために実施したものです。

当日は、両日あわせて249人の参加があり、講師の山本 仁安全衛生管理部教授から、NMRのクエンチ事故による酸素欠乏の危険性、関係法令、事故防止上の注意点、保護具の取り扱い等について説明がありました。

(安全衛生管理部)



熱心に聞き入る受講生(基礎工学部国際棟)

人権問題に関する講演会開催

人権問題に関する講演会が、7月20日(金)に蛋白質研究所本館1階講堂において開催されました。この講演会は毎年7月及び12月に本学の人権問題啓発行事の一環として開催されているもので、今回は関西大学社会学部の石元清英教授を講師に招き、「キャンパス・セクシュアル・ハラスメントの現状と対策—大学における人権保障の取り組みについて考える—」と題して講演いただきました。

講演会では、セクシュアル・ハラスメントの具体的事例や大学に求められる取り組みなどについてお話しいただき、当日参加した約100名の教職員・学生は最後まで熱心に聴講しました。講演終了後には活発な質疑応答が行われるなど、大変有意義な講演会となりました。

(総務部総務課)



第8回(平成19年度)課外研究奨励費伝達式実施

第8回(平成19年度)課外研究奨励費の伝達式が、宮原秀夫総長、大和谷 厚学生生活委員会委員長等の出席のもと、7月10日(火)に事務局において行われました。

課外研究奨励費は、「学部学生の研究意識の向上」を目的とし、個人又はグループ単位の学生自身による研究テーマを募集し、独創的かつ意欲的であると認められた研究テーマに対して授与されるものです。

今回は、22件の応募があり、11件が採択されました。

伝達式では、初めに大和谷委員長から選考経過について

説明があり、続いて総長から受賞者に対しての賞状の授与と激励の言葉があり、その後、各受賞者から抱負等が述べられ、終始和やかな雰囲気の中無事終了しました。

〈今回採択されたテーマ〉

- ・大阪府における群集墳の研究 一須賀古墳群の測量調査を中心に
- ・国際法模擬裁判大会への取り組みを通じた国際法の研究
- ・阪大のブランド力向上とキャンパス・イノベーション戦略
- ・インターカレッジ政策提言コンペティションを通じた学生の政策構想力・発信力の育成
- ・筋感覚情報がラットにおける記憶・学習能に及ぼす影響
- ・国際保健の観点からアジアの発展途上国への個人、NGOレベルでの国際貢献策を探る
- ・マスキング錯視を利用したヒト視覚情報の時空間処理に関する研究
- ・国際マイクロメカニズムコンテストに向けた自走型マイクロロボットの開発
- ・フォーミュラカーの企画、設計および製作
- ・デザインによる大学内外への知の開放
- ・大学における博物館の現状把握と集客力向上について

(学生部学務課)



第27回大阪大学共済組合ボウリング大会実施

平成19年度共済組合福祉事業の一環として、ボウリング大会が7月17日(火)～20日(金)の4日間にわたって新大阪のイーグルボウルにおいて行われました。

本年度の参加人数は621名で、1人2ゲームの合計得点を競う個人戦により熱戦が繰り広げられました。

なお、入賞者は次のとおりです。

◆男子の部(参加人数365名)

優勝(388点) 情報推進部情報基盤課	南 吉 英
準優勝(360点) 総務部人事課	田 中 護
第3位(354点) 薬学研究科	曾 我 克 成

◆女子の部(参加人数256名)

優勝(331点) 医学部附属病院	名 加 英 子
準優勝(303点) 研究推進・国際部学生交流推進課	若 林 真 弓
第3位(295点) 工学部	山 岡 ゆり子

(総務部人事課)



宮原秀夫総長による始球式

在阪報道各社との懇談会開催

中之島センター9階の会議室において開催された懇談会には、本学からは宮原秀夫総長をはじめ、理事、総長補佐等が、報道関係からは9機関から14名の出席がありました。宮原総長の挨拶の後、各理事からこれまで取り組んだ事項についての説明があり、報道関係者との質疑応答を中心に意見交換が行われました。



引き続き、交流サロンにおいて懇親会が催され、活発な情報交換が行われました。

(総務部評価・広報課)

事務系職員の新評価制度に係る評価者研修【実践編】実施

事務系職員の新評価制度に係る評価者研修【実践編】が、7月4日(水)、7月13日(金)及び7月23日(月)の各日半日単位で計6回実施され、延べ385名が受講しました。

この研修は、昨年10月25日から27日まで及び本年5月31日に実施した本評価者研修の実践編として、本年10月の勤務評価(定期評価)の実施に先立ち、①新評価制度の仕組みと手法について確認する、②研修参加者の人事評価における相場形成を図ることを目的として実施されたものです。

株式会社MSC(マネジメントサービスセンター)コン



サルタントの浅芝正信氏を研修講師に迎え、予め受講者に配付したケーススタディをもとに各人の評価結果をグループ討議によりさらに検討した上で、他グループとの比較等を行った後、講師から、プラスの行動・事実の確認、マイナスの行動・事実の確認及び適切な評価項目に反映させる確認が行われました。

受講者はケーススタディに真剣に取り組み、活発なグループ討議を行い、本年10月の定期評価に向けて、評価者として意識を再確認し、全日程の研修を無事終了しました。

(総務部人事課)

第4回大阪大学睡眠学談話会開催

7月25日(水)に第4回大阪大学睡眠学談話会が開催されました。この談話会は、昨年度医学部附属病院に設置された睡眠医療センターを核に、基礎医学・社会医学も含む学際的な睡眠学研究拠点形成構想で発足し、第1回の大阪バイオサイエンス研究所理事長早石 修先生、第2回の米国スタンフォード大学睡眠・サーカディアンリズム研究所所長西野精治先生、第3回の滋賀医科大学睡眠医学講座特任教授大川匡子先生に引き続き、今回は、社会医学の視点からみた睡眠学をテーマに、筑波大学社会健康医学准教授の谷川 武先生、秋田大学公衆衛生学教授の本橋 豊先生にご講演いただきました。谷川先生には、「地域・職域における睡眠呼吸障害スクリーニングの取り組み」という演題で、循環器疾患、交通事故、産業災害のリスクである睡眠時無呼吸症候群（sleep



谷川准教授

apnea syndrome, SAS)の諸問題を解決するために、パルスオキシメトリーやフローセンサ法を用いたSASスクリーニングの有用性について



本橋教授

お話しいただきました。本橋先生には、「交代制勤務に従事する看護職員の日中の眠気について」という演題で、交代制勤務者における日中の過度の眠気と勤務中のミスのしやすさに関連する要因について、平均睡眠時間減少、家族における精神的・実質的サポートの不足が有意に関連していたことなどをお話しいただきました。講演後は約100名の聴衆とともに、活発な討議が行われました。また、講演終了後、懇談の機会を持ち、先生方の睡眠学に対する真摯な姿勢に触れ、参加者一同有意義な時間を過ごしました。

(医学系研究科・医学部)

共催事業「大学ってどんなところ？—大学人からのメッセージ」開催

8月5日(日)、千里ロータリークラブと共催で同クラブ35周年記念事業「大学ってどんなところ？—大学人からのメッセージ」と題し、高校生、保護者、教員等を対象とした現役大阪大学教員による講演、模擬授業、ワークショップを行い、約150名が参加しました。

この催しでは、鷺田清一理事・副学長による「〈おもしろさ〉ということについて」と題した講演の他、小倉明彦大学院院生命機能研究科教授による模擬講義「脳のしくみ



講演する鷺田理事・副学長



ワークショップに参加する高校生（中央：平田教授）

—記憶って、どう作られるの?」、平田オリザコミュニケーションデザイン・センター教授による「大学で演劇?」と題したワークショップが行われました。

平田教授のワークショップでは、高校生が実際に身体を動かし、グループになってコミュニケーションを図る手法を学び、独自の演劇論を通じ、人間相互の理解を深める体験学習となりました。

(総務部評価・広報課)

北河康隆助教らが日本化学会第 87 春季年会 「優秀講演賞」及び「学生講演賞」受賞

3月25日(日)～28日(水)に関西大学千里山キャンパスで開催された日本化学会第87春季年会における研究発表に対し、大学院理学研究科化学専攻の北河康隆助教が「優秀講演賞」、大学院理学研究科化学専攻武田 亮君、渡部浩史君、大学院理学研究科高分子科学専攻宮脇敦久君の3名が「学生講演賞」を受賞しました。

この賞は、若手研究者が各自の研究をまとめた形で発表することによって、その研究のより一層の進展と活性化を図るものとして設けられた「講演」の中から、発表内容、プレゼンテーション、質疑応答などにおいて優れた講演で、講演者の今後の一層の研究活動発展の可能性を有すると期待されるものに対して贈られるものです。

受賞者には、その栄誉をたたえ、さらに一層の研鑽を積まれることを期待して表彰状が授与されました。

「優秀講演賞」

北河康隆助教「Pt₂(dta)₄I 錯体の鎖内構造と電子状態の理論的研究」

「学生講演賞」

武田 亮「スピン最適化共鳴 Hartree – Fock 法」

渡部浩史「イエットキシンの全合成研究」

宮脇敦久「光応答性部位を有するアダマンタン修飾 α - シクロデキストリンが形成する超分子構造とその構造変化」

(理学研究科・理学部)



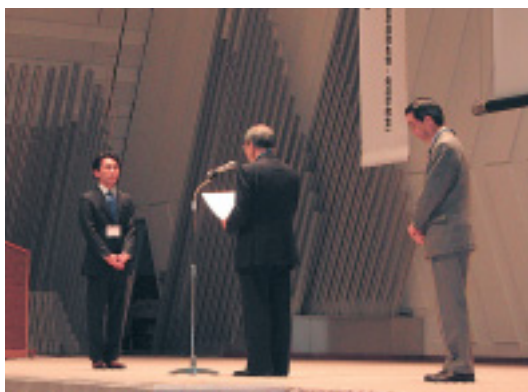
寺尾 豊講師「北里柴三郎記念学術奨励賞」受賞

大学院歯学研究科分子病態口腔科学専攻口腔分子免疫制御学講座の寺尾 豊講師が、社団法人日本感染症学会から「北里柴三郎記念学術奨励賞」を授与されました。

同賞は、感染症学とそれに関連する領域において優れた研究者に授与されるものであり、授賞式は4月10日(火)に国立京都国際会館において開催された第81回日本感染症学会総会において行われました。

今回の受賞は、寺尾講師の「A 群レンサ球菌感染症の重症化メカニズムの解析」に関する業績に対して与えられたもので、本研究科教員として、また、歯学領域の研究者として初めての受賞となりました。

(歯学研究科・歯学部)



佐々木孝友名誉教授、森 勇介教授、吉村政志助教 「文部科学大臣表彰科学技術賞(研究部門)」受賞

大学院工学研究科の佐々木孝友名誉教授、森 勇介教授、吉村政志助教が、「非線形光学結晶 CsLiB₆O₁₀ の発見と全固体紫外レーザー光源の実用化研究」に関する業績で文部科学大臣表彰科学技術賞(研究部門)を受賞しました。

この賞は、我が国の科学技術の発展等に寄与する可能性の高い独創的な研究又は開発を行った者を対象としており、賞の対象となった非線形光学結晶 CsLiB₆O₁₀ (CLBO) は、1993 年に世界に先駆けて本学で発見したものです。

この CLBO 結晶の紫外光発生特性は既存の結晶よりも優れ、現在、短波長紫外レーザー光源の開発に必要な不可欠な結晶です。溶液攪拌による新しい結晶育成法の開発によりレーザー損傷耐性の向上に効果があることを見だし、Nd:YAG レーザーの第4高調波(波長:266nm)、第5高調波(波長:213nm)、波長199~193nmの真空紫外光などを、固体レーザーとしては世界最高出力を発生することに成功しています。現在、CLBO 結晶は様々なレーザー装置メーカーで用いられており、その用途は、電子産業分野での超微細加工、LSI の製造に使用するフォトマスク(回路基板)や作製した LSI ウェハの欠陥検査光源、構造解析用タンパク質結晶の微細加工などがあげられます。

授賞式は、4月17日(火)に虎ノ門パストラルで行われました。

(工学研究科・工学部)



右から吉村助教、佐々木名誉教授、一人おいて森教授

中嶋英雄教授「文部科学大臣表彰科学技術賞(研究部門)」受賞

産業科学研究所の中嶋英雄教授が、文部科学大臣表彰科学技術賞(研究部門)を受賞しました。この賞は、我が国の科学技術の発展等に寄与する可能性の高い独創的な研究又は開発を行った者を対象としており、今回対象となったのは「一方向凝固法によるポーラス金属の作製と特性に関する研究」です。

従来使用されてきたポーラス金属の多くは球状の気孔を有しそのサイズが不均一で十分な強度を保持していませんでした。また、ステンレス鋼などの熱伝導度が低い金属は凝固時に気孔分布が不均一となり、実用に耐える材料の作製は困難でした。中嶋教授は凝固過程を制御することによって気孔が一方向に整列し均一サイズを有するポーラス金属の製造法を確立し、優れた強度特性、制振性、吸音性、放熱性などを有することを明らかにし、さらに連続帯溶融法や連続鋳造法を発明し量産化技術の基礎を築きました。

この製法によって作製された大型ポーラス金属を用いて、制振性・軽量性に優れた工作機械や高熱伝達性のヒートシンクの製品実用化が行われています。また、ポーラス銅を用いたゴルフパターの実用化を行いました。

授賞式は、4月17日(火)に東京虎ノ門パストラルで行われました。

(産業科学研究所)



村上 聡准教授「文部科学大臣表彰(若手科学者賞)」受賞

産業科学研究所生体情報制御学研究分野の村上 聡准教授が、文部科学大臣表彰(若手科学者賞)を受賞しました。この賞は、科学技術分野の文部科学大臣表彰において、萌芽的な研究、独創的視点に立った研究等、高度な研究開発能力を示す顕著な研究業績を挙げた若手研究者を対象に審査、表彰されるものです。

今回の受賞では、村上准教授の「多剤排出蛋白質の結晶構造に基づく作動メカニズムの研究」における、世界初の多剤排出トランスポーターの結晶構造解明に続く、多剤排出トランスポーターと抗生物質、抗ガン剤との複合体結晶構造に基づく多基質認識のメカニズムおよびその輸送原理解明が評価されました。

これらの成果はそれぞれ2002年、2006年に英科学誌ネイチャーの本論説(article)として発表され、さらに同誌の表紙を飾る業績として、国内外から大きく注目を集めています。本成果は細胞膜を介した物質輸送の本質的理解に繋がる成果として基礎科学的に高く評価されていますが、院内感染や抗がん剤耐性化など臨床現場で問題となっている薬剤耐性化の克服に直接的な解決策を与える可能性もあるため、応用面での展開も大いに期待が集まっています。

表彰式は、4月17日(火)虎ノ門パストラルにて行われました。

(産業科学研究所)



寺尾 潤助教「Merck-Banyu Lectureship Award」受賞

大学院工学研究科附属原子分子イオン制御理工学センターの寺尾 潤助教が、Merck-Banyu Lectureship Awardを本学で初めて受賞しました。この賞は次世代を担う新進気鋭の若手有機合成化学者(40歳未満)に対して表彰するものであり、選考は昨年8月下旬の一次書類審査に始まり、日本の有機合成化学界のオールスターのような審査委員の先生方を前にしての二次のプレゼンテーション審査を経て、約4ヶ月間をかけて行われます。本賞は、我が国の有機合成化学者が世界のトップランナーであり続けることを目指し、受賞者に対して米国の主要一流大学(シカゴ大学、マサチューセッツ工科大学、プリンストン大学、スタンフォード大学、カリフォルニア大学等)の研究室を訪問し、講演を行う機会が与えられます。第一回受賞者は井上將行氏(東京大学大学院薬学研究科教授)、第二回受賞者は金井 求氏(東京大学大学院薬学研究科准教授)であり、今回は第三回目と歴史の浅い賞ではありますが、有機合成化学の分野ではステータスの高い若手の賞としての位置づけが確立しつつあります。

受賞式及び受賞講演は7月7日(土)に第19回万有札幌シンポジウム(北海道厚生年金会館)にて行われました。今回の受賞は、寺尾助教の「アニオン性遷移金属錯体を触媒活性種とする炭素-炭素及び炭素-ケイ素結合形成反応の新方法論」における業績が、これまで利用が困難とされてきた有機化合物による分子変換を可能とする新手法を創出したとして評価されました。

(工学研究科・工学部)



小川量平君が基礎工学研究科「第1回三菱レイヨン奨学金」授与

基礎工学研究科に今年度から新たに創設された三菱レイヨン株式会社からの奨学寄付金に基づく第1回三菱レイヨン奨学生に、機能創成専攻博士前期課程1年次の小川量平君が選ばれ、授与式が、6月18日(月)に三菱レイヨン本社において開催されました。

この奨学金は、大学院博士前期課程に入学した学生で、優秀な学業成績をおさめ、前向きで意欲的な姿勢を持つ人物を対象に2年間奨学金が授与されます。

本研究科選考委員会において、奨学生が選考され、授与式当日には三菱レイヨン社の関係者、田谷正仁大学院基礎工学研究科副研究科長、奨学生等が出席のもと、奨学金授与式が執り行われました。

栄えある第1回奨学金受賞者は、下記の学生で、西田正吾研究科長の代理として田谷副研究科長から奨学金証書が授与されました。小川君の栄誉を称え、今後の活躍を期待いたします。

(基礎工学研究科・基礎工学部)



阿野勇介君、中村遼太郎君に「第4回マイクロン奨学金」授与

平成16年度から創設された米国マイクロンテクノロジー基金からの奨学寄附金に基づく第4回マイクロン奨学金授与式が、7月13日(金)に工学研究科及び基礎工学研究科において、それぞれ開催されました。

この奨学金は、マイクロエレクトロニクス分野(物理工学、電気工学、化学・生物工学、機械工学、システム工学、コンピュータ工学、情報工学など)を専攻する大学院博士前期課程に入学した学生で、優秀な学部学業成績をおさめ、優れたリーダーシップを発揮できる学生を対象に2年間奨学金が授与されます。

両研究科の選考委員会において、奨学生が選考され、授与式当日にはマイクロン・ジャパン社の関係者、両研究科の研究科長、選考委員会委員等の関係教員、奨学生等が出席し、奨学金授与式が執り行われました。

第4回奨学金受賞者に、大学院工学研究科応用化学専攻博士前期課程1年次の阿野勇介君と大学院基礎工学研究科機能創成専攻博士前期課程1年次の中村遼太郎君が選ばれ、勝本マイクロン・ジャパン株式会社代表取締役社長及び両研究科長から奨学金証書が授与されました。

両君の栄誉を称え、今後の活躍を期待いたします。



阿野勇介君とマイクロン社、工学研究科関係者



中村遼太郎君とマイクロン社、基礎工学研究科関係者

(工学研究科・工学部、基礎工学研究科・基礎工学部)

松木光子名誉教授「第41回フローレンス・ナイチンゲール記章」受章

松木光子名誉教授が、第41回フローレンス・ナイチンゲール記章を受章されました。

この記章は、赤十字国際委員会から看護師に与えられる世界最高の荣誉あるメダルで、ナイチンゲール女史の生誕100周年を記念して1920年（大正9年）に第1回の記章が授与されて以来、隔年で、世界中の功績顕著な看護師に授与されるものです。

松木名誉教授は、米国留学中に「看護診断」を学び、帰国後、看護師が専門職として力を発揮するためには、看護を科学的根拠に基づいて提供する看護診断が必要であるとして、その普及運動に貢献されました。この看護診断は、看護の質の向上と標準化になくはならないものとして、1980年代末には世界的なものになっていましたが、日本では十分認知されていなかったため、看護診断研究会（後の日本看護診断学会）を設立し、初代理事長として日本における看護診断の発展に寄与されました。

さらに、松木名誉教授は、看護診断研究で得られた豊富な学識と経験を教育の場で実践的に活用し、看護教育の基盤を確立するとともに、後進の育成に尽力されました。

今回の受章は、これら看護教育の分野における顕著な貢献が評価されたものです。

授与式は、7月9日（月）東京プリンスホテルにおいて行われ、日本赤十字社名誉総裁の皇后陛下より記章が授与されました。

（医学系研究科・医学部）



齋藤 渉准教授「第4回日本独文学会賞（ドイツ語論文部門）」受賞

大学院言語文化研究科（応用言語技術論講座／ドイツ語部会）の齋藤 渉准教授が、第4回日本独文学会賞（ドイツ語論文部門）を受賞しました。この賞は、同学会員の優れた研究成果の中から、毎年1回、日本語研究書部門、ドイツ語研究書部門、日本語論文部門、ドイツ語論文部門の4部門について贈られるものです。

今回は、日本独文学会の国際学会誌 *Neue Beiträge zur Germanistik*, Bd. 3, Heft 5 (2004) に掲載された齋藤准教授の論文 *A. F. Bernhardt und W. v. Humboldt. Eine negative Auswirkung der allgemeinen Grammatik* が、ドイツ語論文部門受賞作3篇のうちの1つに選ばれました。同論文は、W. v. フンボルトの言語研究に対してA. F. ベルンハルディら同時代の普遍文法理論が与えたネガティブな影響を論じたものです。

贈呈式は、6月9日（土）に東京大学駒場キャンパスで開催された日本独文学会春季研究発表会で行われました。

（言語文化研究科）



審良静男教授「2007年度日本学士院賞・恩賜賞」受賞

微生物病研究所の審良静男教授が2007年度日本学士院賞・恩賜賞を受賞されました。日本学士院賞は、学術上特に優れた論文、著書その他研究業績に対して授与されるものであり、日本の学術賞としては最も権威ある賞です。恩賜賞は、日本学士院による賞の中でも特に権威あるもので、毎年9件以内に授賞される日本学士院賞の中から特に優れた各部1件以内に贈られるものです。

自然免疫は、これまでは非特異的免疫とも呼ばれ、単に病原体の貪食・処理に関わる低次の感染防御反応であると考えられてきました。しかし、Toll様受容体（TLR）の発見、機能解析を通じて自然免疫が極めて特異的に病原体を認識し、病原体の侵入に対処していること、さらに獲得免疫（抗体産生やキラーT細胞）の誘導に必須であることが明らかになりました。審良教授の今回の授賞は、自然免疫による病原体認識とシグナル伝達に関する研究成果が高く評価されたものです。

授賞式は、6月11日(月)、日本学士院会館において、天皇皇后両陛下ご臨席のもと、執り行われました。



(微生物病研究所)

新役員紹介

西 田 正 吾 (にしだ しょうご)

理事・副学長（総合計画担当）



【略歴】

- 昭49. 3 東京大学工学部電子工学科卒業
- 51. 3 東京大学大学院工学系研究科電気工学専攻修士課程修了
- 51. 4 三菱電機株式会社入社
- 59. 3 工学博士（東京大学）
- 59. 9 MITメディア研究所客員研究員（昭60.8まで）
- 平元. 3 三菱電機株式会社中央研究所グループマネージャー
- 7. 4 大阪大学教授基礎工学部
- 9. 4 大阪大学教授大学院基礎工学研究科
- 14. 4 大阪大学評議員
- 15.10 大阪大学大学院基礎工学研究科長・基礎工学部長（平19.8まで）
- 17. 9 大阪大学総長補佐（平19.8まで）
- 19. 8 国立大学法人大阪大学理事・副学長

小 泉 潤 二 (こいずみ じゅんじ)

理事・副学長（教育・情報担当）



【略歴】

- 昭48. 3 東京大学教養学部教養学科卒業
- 50. 3 東京大学大学院社会学研究科修士課程修了
- 55. 3 東京大学大学院社会学研究科博士課程中退
- 56. 6 スタンフォード大学大学院修了
- 人類学博士（Ph.D., Anthropology, Stanford University）
- 56. 7 アルバート大学キラム記念博士研究員兼非常勤講師（昭57.5まで）
- 57. 6 愛知県立大学講師文学部
- 60.10 愛知県立大学助教授文学部
- 62. 4 新潟大学助教授人文学部
- 平 2. 4 大阪大学助教授人間科学部
- 8. 4 大阪大学教授人間科学部
- 8. 9 プリンストン高等研究所ハンズマン招聘研究員（平9.8まで）
- 12. 4 大阪大学教授大学院人間科学研究科
- 16. 5 大阪大学大学院人間科学研究科長・人間科学部長（平18.4まで）
- 18. 4 大阪大学総長補佐（平19.8まで）
- 19. 4 大阪大学グローバルコラレーションセンター（GLOCOL）センター長（平19.8まで）
- 19. 8 国立大学法人大阪大学理事・副学長

西 尾 章治郎 (にしお しょうじろう)

理事・副学長（研究推進担当）



【略歴】

- 昭50. 3 京都大学工学部数理工学科卒業
- 52. 3 京都大学大学院工学研究科修士課程数理工学専攻修了
- 55. 3 京都大学大学院工学研究科博士後期課程数理工学専攻修了
- 55. 3 工学博士（京都大学）
- 55. 4 京都大学助手工学部
- 55. 7 カナダ・ウォータールー大学客員研究助教授（昭56.6まで）
- 63.10 大阪大学助教授基礎工学部
- 平元.10 大阪大学助教授情報処理教育センター
- 4. 4 大阪大学助教授基礎工学部
- 4. 8 大阪大学教授工学部
- 10. 4 大阪大学教授大学院工学研究科
- 12. 4 大阪大学サイバーメディアセンター長（平15.8まで）
- 12. 4 大阪大学評議員
- 13. 4 文部科学省科学官
- 14. 4 大阪大学教授大学院情報科学研究科
- 15. 8 大阪大学大学院情報科学研究科長（平19.8まで）
- 16. 4 大阪大学総長補佐（平18.3まで）
- 19. 8 国立大学法人大阪大学理事・副学長

新役員紹介

高 杉 英 一 (たかすぎ えいいち)

理事・副学長 (評価・広報担当)



【略歴】

- 昭43. 3 大阪大学理学部物理学科卒業
- 45. 3 東京大学大学院理学系研究科物理学専門課程修士課程修了
- 50. 9 アメリカ合衆国メリーランド大学大学院修了
- 50.10 アメリカ合衆国オハイオ州立大学助手
- 50.12 Ph.D.学位授与 (メリーランド大学)
- 51. 3 東京大学大学院理学系研究科物理学専門課程博士課程単位修得退学
- 52.10 アメリカ合衆国テキサス大学助手
- 54.10 アメリカ合衆国オレゴン大学助手
- 55. 3 大阪大学助手教養部
- 60. 5 大阪大学講師教養部
- 61. 8 大阪大学助教授教養部
- 平元. 5 大阪大学教授教養部
- 6. 4 大阪大学教授理学部
- 16. 4 大阪大学教授大学教育実践センター
- 16. 4 大阪大学大学教育実践センター長 (平19.8まで)
- 17. 4 大阪大学総長補佐 (平18.3まで)
- 19. 8 国立大学法人大阪大学理事・副学長

門 田 守 人 (もんでん もりと)

理事・副学長 (財務・会計担当)



【略歴】

- 昭45. 3 大阪大学医学部医学科卒業
- 45. 4 大阪大学医学部附属病院において臨床研修の補助に従事
- 45. 6 大阪大学医学部附属病院において臨床研修に従事
- 46. 7 兵庫県立西宮病院医師
- 48. 7 大阪大学医学部附属病院において研究に従事
- 50. 4 大阪大学医学部附属病院医員
- 54. 2 大阪大学助手医学部
- 54. 7 スローン・ケタリング記念癌センター客員研究員
- 62. 5 大阪大学講師医学部
- 平 2. 8 大阪大学助教授医学部
- 6.11 大阪大学教授医学部
- 11. 4 大阪大学教授大学院医学系研究科
- 16. 4 大阪大学医学部附属病院副病院長
- 19. 8 国立大学法人大阪大学理事・副学長

佐々木 順 司 (ささき じゅんじ)

理事・事務局長 (人事労務担当)



【略歴】

- 昭51. 4 文部省入省
- 平 4. 7 同 大臣官房企画官
- 7. 7 文化庁宗務課長
- 9. 7 文部省体育局学校健康教育課長
- 11. 7 同 学術国際局学術課長
- 12. 7 同 大臣官房主任行政改革官
- 13. 1 日本学術会議総務部長
- 14.11 東京工業大学事務局長
- 17. 1 衆議院調査局文部科学調査室首席調査員
- 19. 1 国立大学法人大阪大学理事・事務局長
- 19. 8 同上

新役員紹介

辻 毅一郎 (つじ きいちろう)

理事 (国際交流推進担当)



【略歴】

- 昭41. 3 大阪大学工学部電気工学科卒業
- 43. 3 大阪大学大学院工学研究科電気工学専攻修士課程修了
- 48. 6 ケースウエスタンリザーブ大学大学院博士課程修了
- 48. 6 Ph.D. (ケースウエスタンリザーブ大学)
- 48. 8 大阪大学助手工学部
- 56. 4 大阪大学講師工学部
- 59. 1 大阪大学助教授工学部
- 63.12 大阪大学教授工学部
- 平10. 4 大阪大学教授大学院工学研究科
- 10. 4 大阪大学超伝導エレクトロニクス研究センター長 (平12.3まで)
- 12. 4 大阪大学超伝導フォトンクス研究センター長 (平16.6まで)
- 16. 4 大阪大学留学生センター長 (平18.3まで)
- 17. 5 大阪大学総長補佐 (平19.3まで)
- 19. 3 定年退職
- 19. 4 大阪大学名誉教授
- 19. 8 国立大学法人大阪大学理事

新部長紹介

小 泉 潤 二 (こいずみ じゅんじ)

附属図書館長



【略歴】

- 新役員紹介 (46 ページ) を参照
- 平19. 8 大阪大学附属図書館長

戸 部 義 人 (とべ よしと)

大学院基礎工学研究科長・基礎工学部長



【略歴】

- 昭49. 3 大阪大学工学部石油化学学科卒業
- 51. 3 大阪大学大学院工学研究科石油化学専攻博士前期課程修了
- 54. 3 大阪大学大学院工学研究科石油化学専攻博士後期課程修了
- 54. 3 工学博士 (大阪大学)
- 54. 4 大阪大学助手工学部
- 58. 7 大阪大学講師工学部
- 平 4. 4 大阪大学助教授基礎工学部
- 9. 4 大阪大学助教授大学院基礎工学研究科
- 10.10 大阪大学教授大学院基礎工学研究科
- 11. 4 大阪大学基礎工学部合成化学科長 (平12.3まで)
- 15.10 大阪大学評議員 (平16.3まで)
- 16. 4 大阪大学教育研究評議員 (平19.8まで)
- 19. 8 大阪大学大学院基礎工学研究科長・基礎工学部長 (平21.8まで)

新部長紹介

今 瀬 眞 (いませ まこと)

大学院情報科学研究科長



【略歴】

- 昭50. 3 大阪大学基礎工学部情報工学科卒業
- 52. 3 大阪大学大学院基礎工学研究科博士前期課程
物理系専攻修了
- 52. 4 日本電信電話公社入社
- 61. 9 工学博士 (大阪大学)
- 63. 1 NTTソフトウェア研究所 主幹研究員
- 平 7. 7 NTT研究開発推進部 総括部門 担当部長
- 9. 7 NTTマルチメディアネットワーク研究所 研究部長
- 14. 4 大阪大学教授大学院情報科学研究科
- 16. 4 大阪大学教育研究評議員
- 19. 8 大阪大学大学院情報科学研究科長 (平21. 8まで)

工 藤 眞由美 (くどう まゆみ)

大学教育実践センター長



【略歴】

- 昭47. 3 津田塾大学学芸学部英文学科卒業
- 49. 3 東京大学大学院人文科学研究科言語学専門課程
修士課程修了
- 54. 3 東京大学大学院人文科学研究科言語学専門課程第1種
博士課程単位修得退学
- 61. 6 横浜国立大学講師教育学部
- 63. 4 横浜国立大学助教授教育学部
- 平 9.10 横浜国立大学助教授教育人間科学部
- 10. 4 大阪大学教授文学部
- 11. 3 博士 (文学) (大阪大学)
- 11. 4 大阪大学教授大学院文学研究科
- 19. 8 大阪大学大学教育実践センター長 (平20.3まで)

栗 本 英 世 (くりもと えいせい)

グローバルコラボレーションセンター長



【略歴】

- 昭50. 3 京都大学文学部卒業
- 52. 3 京都大学大学院文学研究科修士課程修了
- 60. 3 京都大学大学院文学研究科博士課程修了
- 62. 4 東京外国語大学助手アジア・アフリカ言語文化研究所
- 平 4. 4 国立民族学博物館助手
- 5. 4 国立民族学博物館助教授
- 5. 4 総合研究大学院大学助教授文化科学研究科
- 12. 4 大阪大学助教授大学院人間科学研究科
- 13. 4 京都大学客員助教授大学院アジア・アフリカ地域研究研究科
(平15.3まで)
- 15. 4 大阪大学教授大学院人間科学研究科
- 15. 4 国立民族学博物館客員教授地域研究企画交流センター
(平17.3まで)
- 19. 8 大阪大学グローバルコラボレーションセンター長 (平21.8まで)

新部長紹介

竹 村 治 雄 (たけむら はるお)

サイバーメディアセンター長



【略歴】

- 昭57. 3 大阪大学基礎工学部情報工学科卒業
- 59. 3 大阪大学大学院基礎工学研究科博士前期課程
物理系専攻修了
- 62. 3 大阪大学大学院基礎工学研究科博士後期課程
物理系専攻単位修得退学
- 62. 4 ㈱国際電気通信基礎技術研究所研究員
- 62. 7 工学博士 (大阪大学)
- 平 3. 4 ㈱国際電気通信基礎技術研究所主任研究員
- 6. 4 奈良先端科学技術大学院大学助教授情報科学研究科
- 13. 4 大阪大学教授サイバーメディアセンター
- 17. 8 大阪大学サイバーメディアセンター副センター長(平19.8まで)
- 19. 8 大阪大学サイバーメディアセンター長 (平21.8まで)

新施設長紹介

渡 部 平 司 (わたなべ へいじ)

大学院工学研究科附属超精密科学研究センター長



【略歴】

- 昭63. 3 大阪大学工学部精密工学科卒業
- 平 2. 3 大阪大学大学院工学研究科精密工学専攻修士課程修了
- 2. 4 日本電気株式会社基礎研究所探索研究部研究職
- 6. 2 博士 (工学) (大阪大学)
- 6. 2 技術研究組合オングストロームテクノロジー研究機構研究職
- 7. 7 技術研究組合オングストロームテクノロジー研究機構主任
- 10. 2 日本電気株式会社基礎研究所主任
- 12. 7 日本電気株式会社シリコンシステム研究所新プロセスTG主任
- 13. 6 日本電気株式会社シリコンシステム研究所新プロセスTG主任研究員
- 16. 1 日本電気株式会社システムデバイス研究所新プロセスTG主任研究員
- 16. 5 大阪大学助教授大学院工学研究科
- 18.11 大阪大学教授大学院工学研究科
- 19. 7 大阪大学大学院工学研究科附属超精密科学研究センター長(平21.6まで)

新教授紹介

三 善 英 知 (みよし えいじ)

大学院医学系研究科



【略歴】

- 昭61. 3 大阪大学医学部医学科卒業
- 61. 7 大阪大学医学部附属病院医員
- 62. 7 国立大阪病院医員
- 平 6. 3 大阪大学大学院医学研究科博士課程修了
- 7.10 大阪大学医学部附属病院医員
- 10.10 財団法人長寿科学振興財団リサーチ・レジデント
- 12. 1 大阪大学助手大学院医学系研究科
- 14. 4 大阪大学助教授医学部
- 15.10 大阪大学助教授大学院医学系研究科
- 19. 4 大阪大学准教授大学院医学系研究科
- 19. 6 大阪大学教授大学院医学系研究科

所 属：大学院医学系研究科保健学専攻医療技
術科学分野機能診断科学講座
専門分野：生化学、消化器内科学

新教授紹介

多 田 元 英 (ただ もとひで)

大学院工学研究科



【略歴】

- 昭55. 3 大阪大学工学部建築工学科卒業
- 57. 3 大阪大学大学院工学研究科建築工学専攻前期課程修了
- 57. 4 (株) 日建設計
- 平元. 3 大阪大学助手工学部
- 6. 2 博士(工学) (大阪大学)
- 10. 4 大阪大学助手大学院工学研究科
- 10. 6 大阪大学講師大学院工学研究科
- 11. 4 大阪大学助教授大学院工学研究科
- 19. 4 大阪大学准教授大学院工学研究科
- 19. 6 大阪大学教授大学院工学研究科

所 属：大学院工学研究科地球総合工学専攻建
築構造学講座
専門分野：建築構造学

宮 際 計 行 (みやぎわ かずゆき)

社会経済研究所



【略歴】

- 昭48. 3 神戸大学経済学部卒業
- 48. 4 伊藤忠商事株式会社総合職 (昭50.7まで)
- 54. 9 オースティンコミュニティーカレッジ講師 (昭58.7まで)
- 60. 5 テキサス大学オースティン校経済学研究科博士課程修了
- 60. 9 デイトン大学経済学部助教授
- 62. 9 ワシントン大学経済学部助教授
- 平 7. 9 香港中文大学経済学部准教授
- 8. 9 ルイジアナ州立大学経済学部准教授
- 13. 9 エモリー大学経済学部准教授
- 19. 6 大阪大学教授社会経済研究所

所 属：社会経済研究所政策研究部門
専門分野：貿易政策、産業組織論、ミクロ経済学

小泉光惠名誉教授(産業科学研究所)逝去



本学名誉教授小泉光惠先生は平成19年3月11日(日)、急性虚血性心疾患のため逝去されました。享年83歳でした。

先生は昭和20年9月京都帝国大学理学部地質学鉱物学を卒業し、京都帝国大学理学部大学院特別研究生を経て、昭和25年3月大阪大学分校講師、昭和28年9月同助教授、昭和37年10月同教授に昇任し、昭和38年4月教養部教授、昭和40年3月産業科学研究所教授に就任し、その後、評議員、産業科学研究所長、大型計算機センター長として、

大阪大学の発展に寄与され、昭和62年3月停年退職されました。退職後は龍谷大学理工学部教授として務められました。

研究面での業績は、鉱物学、結晶化学、無機合成化学及びセラミックス科学の広い分野、特に無機材料科学において新規なプロセス創製や数多くの新物質を合成することに成功し、それらの結晶構造と興味ある電磁気特性を解明しました。

一方、学外では、学術審議会専門委員、科学技術会議専門委員、航空・電子等技術審議会専門委員、科学技術庁参与をはじめ、日本鉱物学会会長、人工鉱物工学会会長、日本セラミックス協会副会長を歴任するとともに、社団法人窯業協会学術賞、社団法人粉体粉末冶金協会岩瀬賞、同協会研究進歩賞など多数の賞を受賞されました。

以上のように、先生の永年にわたる教育及び研究活動は、学問の進歩発展、大学教育の充実、社会の基盤となる人材育成に大きく貢献したものととして、平成2年4月に紫綬褒章、平成7年11月には勲二等旭日重光章を授与されました。ここに謹んで哀悼の意を表します。

(産業科学研究所)

藤田 博名誉教授(理学部)逝去



本学名誉教授藤田 博先生は、平成19年3月28日(水)肺ガンのため逝去されました。享年85歳でした。

先生は、大正11年京都市にお生まれになり、昭和19年京都帝国大学理学部物理学科を卒業後、立命館大学理科学部専門学校講師、同教授、京都大学農学部水産学科助手、同助

教授を歴任され(昭和28年京都大学より理学博士の学位授与)、昭和36年4月に大阪大学理学部高分子学科に教授として着任されました。以来、昭和61年3月の定年退官まで35年間にわたり、理学部・理学研究科の発展に尽くされました。また評議員としても大阪大学の管理運営にご尽力いただきました。

先生は、我が国の高分子研究黎明期に、高分子粘弾性や沈降・拡散の理論と実験的研究において先駆的役割を果たされました。さらに、高分子溶液物性の研究においては、世界の標準と評価される広範で精密な実験データを続々と発表され、その分野の世界的リーダーとして活躍されました。研究者には国際性が大事であることを研究室スタッフや学生に常々力説され、英語教育にも大変熱心でした。実際、3冊の英語の専門書を単著で欧米から出版しておられます。

ここに謹んで哀悼の意を表します。

(理学研究科・理学部)

岡野錦彌名誉教授(医学部)逝去



本学名誉教授岡野錦彌先生は、4月14日(土)に市立伊丹病院で逝去されました。享年92歳でした。

先生は昭和13年3月大阪帝国大学医学部を卒業され、

昭和17年助手に任命。昭和22年9月和歌山県立医専教授、昭和23年7月大阪大学附属医学専門学校教授、昭和26年1月大阪大学助教授、昭和32年7月和歌山県立医科大学教授に補され、同学病理学第二講座の創設を行いました。昭和35年4月大阪大学医学部教授として病理学第二講座を担当し、昭和53年3月停年退官されました。先生は研究面では内分泌学、血液病理学を専門とされ、多くの業績を残しておられます。先生は自然を愛され、「猪名川自然を守る会」の活動を中心に進められ、昭和58年朝日森林文化賞を受賞されています。

以上の功績に対し、平成14年4月29日勲三等旭日中綬章が授与されました。

ここに謹んで哀悼の意を表します。

(医学系研究科・医学部)

東風西風

スワヒリ語が身近かなものになる喜び

五 島 忠 久



このたびの大阪外国語大学との統合で得られるいろいろな成果の中で、私にとって最も嬉しいことは、研究・教育の目標となる外国語の選択肢の一つにスワヒリ語（Swahili）が加えられることです。

この機会に、スワヒリ語を通じての大阪外国語大学と私との深いつながりを述べさせていただくことも無意味ではないと思いますので、以下にその概略を記すことにいたします。

私とスワヒリ語との接触は学生時代に始まります。昭和10年（1935）、英語の「文法的性」（Gender）の歴史的变化を追求した卒業論文“A Historical Study of the Gender of Nouns in English”で東京大学の文学部言語学科を卒業した私は、英語以外のいろいろな言語の文法的性もしらべた結果、アフリカのスワヒリ語に独特な一種のGenderに類するものがあることを知り、それにのめりこむことになりました。

当時の言語学科の主任教授は朝鮮語学の小倉進平先生、助教授はアイヌ語学の金田一京助先生でした。私は英語の教師になりたかったので、英文学科主任教授の市河三喜先生から英語学のご指導も受けました。

卒業後一年間、大学院に在籍して、「言語における文法的性」というテーマにとりくみましたが、以後12年間、中学（旧制）と高校（旧制）で英語を教えるのに忙しく、私の最初の仕事として、英国のアフリカ語学者 A. Werner のアフリカ諸言語の構造と関係についての著書を翻訳し、補註をつけたものが三省堂の「語学文庫」のひとつとして世に出たのは、昭和19年（1944）のことでした。

昭和24年（1949）、新制の大阪大学に勤めるようになってからは、文学部大学院と学部の英語学の講義と教養部の一般英語の指導とに力を注いで、スワヒリ語にとりくむゆとりはありませんでしたが、少しずつ暇を見つけて、アフリカ諸語の啓蒙書やスワヒリ語文法の入門書を書いたりしていました。

昭和40年（1965）、大阪外国語大学の非常勤講師を委託され、各学科の学生が聴講できる「研究語学」の一つとしてのスワヒリ語を担当することになりました。受講学生数は10人から30人くらいの間で、10年近く続きました。しかし、スワヒリ語が話されるアフリカの現地へ行ったこともなく、近代のスワヒリ語作家の作品に親しんだこともない私がスワヒリ語を教えるなど、はなはだおこがましいことであり、申し訳ないことだと思いましたが、学生諸君といっしょに勉強するつもりで、お引き受けし、頑張りました。

その頃、また、日本アフリカ学会や東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所ともつながりがで

その後、大阪外国語大学では、昭和 56 年（1981）に、ようやく念願かなって、アラビア語学科内の副専攻として、日本最初のスワヒリ語講座が設けられました。さらに、定員 20 名が定められ、昭和 62 年（1987）に学科名がアラビア・スワヒリ語学科と改称され、平成 2 年（1990）にはスワヒリ語専攻の大学院修士課程が開設されました。同時に、同年、「スワヒリ＆アフリカ研究」（Journal of Swahili and African Studies）第 1 号が出て、スワヒリ語域の言語・文学のみならず、政治・経済、さらにアフリカ全体の総合的な社会・文化の探求をも目指していることが明らかにされました。

[illegible]

「スワヒリ＆アフリカ研究」
第1号表紙

大阪大学大学院学位記授与式のお知らせ

大学院学位記授与式を下記のとおり挙ります。

○ 大学院学位記授与式

日 時：平成19年9月26日(水) 11時00分～

【入場：10時20分～10時45分】

場 所：大阪大学コンベンションセンター3階 MO ホール

○ 同 祝賀会

日 時：授与式終了後

場 所：大阪大学コンベンションセンター1階 会議室

※同伴者の方も授与式にご出席いただけます。

※車での来場はご遠慮下さい。

〈問い合わせ先〉

総務部総務課総務係 TEL：06－6879－7014



(総務部総務課)

平成18年度入構・駐車整理業務収支決算

大阪大学施設マネジメント委員会に対し報告が行われ、承認されました。

差引残高については、平成19年度に繰り越すこととなりました。

単位：円

収 入		支 出	
前年度繰越高	28,928,258	業務委託料	88,311,913
小 計	28,928,258	小 計	88,311,913
当期の収入		物件費	
事前申請分	94,162,850	消耗品費	192,063
当日申請分	24,212,050	修繕費	17,850
預金利息	40,831	印刷製本費	2,771,180
雑収入	0	小 計	2,981,093
小 計	118,415,731	雑費	
		寄附金	28,928,258
		料金返却料	1,343,250
		振込手数料	154,140
		雑費	80,000
		小 計	30,505,648
合 計	147,343,989	合 計	121,798,654
		収支差引	25,545,335

(総務部総務課)

第23回湯川記念講演会

日 時：平成19年10月6日（土）13時～17時
場 所：大阪大学中之島センター10階 佐治敬三メモリアルホール
対 象：高校生以上の学生及び社会人
定 員：先着190名
受 講 料：無料
主 催：大阪大学湯川記念室

高校生、社会人を対象に、最前線の物理を紹介します。

13:00～14:30 「身近に見た湯川先生と朝永先生」
小 沼 通 二（慶應義塾大学、武蔵工業大学名誉教授）
15:00～16:30 「ナノと物性－スーパーアトムを並べる－」
野 末 泰 夫（大阪大学大学院理学研究科教授）

申込方法：郵便、E-mailまたはFAXで、氏名、ふりがな、郵便番号、住所、電話番号、年齢、性別、職業をご連絡ください。
（ご連絡いただいた個人情報、他に利用するものではありません。）

電話によるお申し込みは不可とさせていただきます。定員に余裕のある場合は、当日会場でも受け付けます。

〒560-0043 豊中市待兼山町1-1 大阪大学大学院理学研究科内 湯川記念講演会係

E-mail: yukawal@het.phys.sci.osaka-u.ac.jp（件名は「2007.10.6参加申込」をお願いします。）

FAX: 06-6850-5727

〈問い合わせ先〉大阪大学大学院理学研究科内 湯川記念講演会係 TEL: 06-6850-5727（月～金 10:00～17:00）

大阪大学湯川記念室ホームページ <http://www-yukawa.phys.sci.osaka-u.ac.jp/>

（湯川記念室）

最先端の物理を高校生に Saturday Afternoon Physics 2007

日 時：平成19年10月20日、27日、11月3日、10日、17日、24日（土）15時～18時
場 所：大阪大学基礎工学部シグマホール（豊中キャンパス）など
対 象：高校生
募集人数：160名
参 加 費：無 料
主 催：大阪大学湯川記念室
共 催：大阪大学理学研究科、工学研究科、基礎工学研究科、大学教育実践センター、
レーザーエネルギー学研究センター、核物理研究センター
後 援：大阪府教育委員会、兵庫県教育委員会、奈良県教育委員会、京都府教育委員会、
京都市教育委員会、読売新聞大阪本社、日本物理教育学会近畿支部、大阪府高
等学校理化教育研究会



最先端の物理をあなたに！ 今年も開催します！

最新の自然像を知ってほしい。そのような願いを込め、「土曜午後の物理－宇宙から極微の世界まで－」を開催します。内容豊かな、とても楽しい学校を目指します。好奇心を失っていないことが参加資格です。あなたを知的興奮と刺激の世界に招待します。

【授業の構成】

授業は毎回3時間で、つぎの三部構成で行います。

- ・基幹講義：自然界の様々な世界を訪ねます [例] 分子世界への旅立ち
- ・コーヒーブレイク：展示、交流、Q&A [例] 物理を体験しよう
- ・実践講義：物理 in ハイテク、ゲーム、クイズ [例] 最先端医療診断：PET

11月10日は吹田キャンパスで最先端の研究施設を見学します。

申込方法：事前申し込みが必要です。郵便・FAX・E-mail又はWebサイトでの申し込みが可能です。氏名、学校名、住所などをお知らせ下さい。

【申し込み締め切り】9月25日（火）必着

※詳しくはホームページ（<http://www-yukawa.phys.sci.osaka-u.ac.jp/SAP/>）をご覧ください。

〈問い合わせ先〉大阪大学大学院理学研究科内 湯川記念室（〒560-0043 豊中市待兼山町1-1）

FAX: 06-6850-5727 E-mail: sap2007@phys.sci.osaka-u.ac.jp

（湯川記念室）

第39回大阪大学中之島講座

今年度の公開講座「中之島講座」を、下記のとおり開催します。

1. 趣 旨

この公開講座は、現代の科学・技術の急速な発展、政治・経済の激しい変化や生活様式の変容の中で、大学の研究成果を広く一般市民・学生の皆様に開放し、生活・職業上の必要な知識の普及と一般教養の向上に資するために企画されたものです。

2. 主 題・講義内容、講義日時、講義題目及び講師

☆主題 A)「現代の諸問題を考える研究・教育のフロンティア」

地球規模の環境問題から、日本の新しい医療を担う人材育成の展望、そして、高齢化社会における新しい生き方「プロダクティブ・エイジング」の提唱、さらには、現代日本社会の民主主義を活性化させる「市民参加」や「市民文化」のあり方を考えるといった、多彩なテーマの講義を揃えました。大学の研究は、社会が抱えている問題を、社会とともに考えていこうとしています。大阪大学の、文系、理系の枠にとらわれない、幅広く、自由な研究・教育の最前線をご紹介します。

講 義 日 時	区分	講 義 題 目	講 師
10月4日(木) 午後6時30分～8時30分	1	ゲーテの自然研究と今日の環境危機	文学研究科・教授 林 正 則
10月9日(火) 午後6時30分～8時30分	2	未来医療の旗手を育てる	医学系研究科・教授 金 田 安 史
10月11日(木) 午後6時30分～8時30分	3	地球環境問題への経済学の取り組み	経済学研究科・教授 伴 金 美
10月16日(火) 午後6時30分～8時30分	4	超高齢社会は高齢者が支える ーエイジズムを超えてプロダクティブエイジングへー	人間科学研究科・教授 藤 田 綾 子
10月18日(木) 午後6時30分～8時30分	5	社会資本 (social capital) と民主主義	法学研究科・教授 河 田 潤 一

☆主題 B)「健康を考える研究・教育のフロンティア」

「よく噛んでおいしく食べる」という、日ごろ私たちが行っている、一見なんでもないような行為が、じつは、私たちの健康をしっかりと支えているという、ごく身近な話題から、がんや心の病に立ち向かう最先端の免疫や遺伝子研究の話題、そして、タイの国立研究所内に大阪大学が文科省の支援を受けて新設した感染症共同研究拠点における研究と人材育成のグローバルな展開をご紹介します。大阪大学の医学、歯学、薬学系の、研究・教育の最前線です。

講 義 日 時	区分	講 義 題 目	講 師
10月23日(火) 午後6時30分～8時30分	1	免疫にとっての自己とは？非自己とは？	生命機能研究科・教授 平 野 俊 夫
10月25日(木) 午後6時30分～8時30分	2	感染症研究の最前線	微生物病研究所・特任教授 西 宗 義 武
11月1日(木) 午後6時30分～8時30分	3	遺伝子改変動物を用いたこころの病気の メカニズムへのアプローチ	薬学研究科・准教授 橋 本 均
11月8日(木) 午後6時30分～8時30分	4	免疫力でがんを治す	医学系研究科・教授 杉 山 治 夫
11月13日(火) 午後6時30分～8時30分	5	口で食べることで、噛むことと全身の健康	歯学研究科・教授 前 田 芳 信

☆主題 C)「エネルギーと情報通信を考える研究・教育のフロンティア」

携帯電話やDVD、そして薄型テレビなどは、いまや、私たちの生活に欠かせないものになりました。その恩恵に深く浴しているにもかかわらず、理科離れの風潮のなかで、その仕組みや理論の話、電気や電子、情報通信の話となると、なんとなく難しそうと敬遠されがちです。今後、いっそうの発展が期待される分野です。ぜひ、これから、大学を目指す方々にも聴講していただきたい、大阪大学の工学系の研究・教育の最前線です。

講義日時	区分	講義題目	講師
11月20日(火) 午後6時30分～8時30分	1	宇宙からの環境観測 ー手造り人工衛星 まいど1号ー	工学研究科・教授 河崎 善一郎
11月22日(木) 午後6時30分～8時30分	2	ミクロな力で原子を見て動かして組み立てる	工学研究科・教授 森田 清三
11月27日(火) 午後6時30分～8時30分	3	光の力でつくる極限状態の世界	工学研究科・教授 兒玉 了祐
12月4日(火) 午後6時30分～8時30分	4	新エネルギーと新しい電気エネルギー流通システム	工学研究科・教授 伊瀬 敏史
12月6日(木) 午後6時30分～8時30分	5	情報通信革命とユビキタスネットワーク	工学研究科・教授 小牧 省三

3. 場 所

大阪大学中之島センター 7階 講義室2

大阪市北区中之島4-3-53 TEL 06(6444)2100 URL <http://www.onc.osaka-u.ac.jp>

4. 対象者及び定員

一般市民・学生 各主題別定員80名 先着順 ※定員になり次第、締切させていただきますので、ご了承ください。

5. 講習料（テキスト代及び消費税を含む。）

- ・1セット（A～Cのうち1つだけを選択して受講する場合） 6,200円
- ・2セット（A～Cのうち2つを選択して受講する場合） 8,200円
- ・3セット（A～Cの全てを選択して受講する場合） 10,200円

※受付期間中に受講取消のお申し出があった場合は、所定の手続きにより、後日、講習料相当額をご返金いたします。但し、返還手続きに要する振込手数料については、ご本人様負担とさせていただきますので、あらかじめご了承ください。なお、受付期間終了後に受講取消のお申し出をされた場合は、キャンセル料として徴収させていただきますので、あらかじめご了承ください。

6. 受講証書

各主題の講義5回のうち4回以上出席された方には、受講証書を1枚授与いたします。

すべての主題（3セット）にお申し込みされ、上述の条件を満たされた方には3枚受講証書が授与されますので、奮ってお申し込みください。

7. 申込方法

- ①下記受付期間中に所定の「受講申込書」に必要事項をご記入のうえ、郵送またはファクシミリで送付願います。受講申込書の記載事項を確認したうえで、折り返し受講決定通知の連絡を電話もしくはEメールにて行います。
- ②受講決定の連絡を受けた方は、期日までに講習料を次の指定振込銀行口座へ受講者の御氏名で振込み願います。
- ③なお、振込みによる手数料等につきましては、受講者負担とさせていただきますので、ご了承ください。

口座名：三菱東京UFJ銀行 茨木支店 普通預金 1289484 口座名義：大阪大学研究推進課

○受付期間：主題A「現代の諸問題を考える研究・教育のフロンティア」

9月18日(火)～9月26日(水)必着（但し、土・日・祝祭日を除く平日のみ）

主題B「健康を考える研究・教育のフロンティア」

10月9日(火)～10月16日(火)必着（但し、土・日・祝祭日を除く平日のみ）

主題C「エネルギーと情報通信を考える研究・教育のフロンティア」

11月6日(火)～11月13日(火)必着（但し、土・日・祝祭日を除く平日のみ）

※受講申込みについて、各主題別に受付期間を設けますが、あらかじめ2セット（2主題）以上受講希望される方は、優先して事前に受付いたしますので、受講申込書を送付される際、希望される主題（A～C）のうち2つ以上に○印を付してください。

8. お問い合わせ及びお申し込み先

〒565-0871 吹田市山田丘1番1号 大阪大学研究推進・国際部研究推進課 中之島講座担当宛

TEL 06(6879)7034 FAX 06(6879)7039 E-mail: kenkyusuisinkikaku@ns.jim.osaka-u.ac.jp

詳しくは、大阪大学研究協力情報ホームページ（<http://kenkyo.jim.osaka-u.ac.jp>）をご参照ください。

9. その他

テキストの配付は、各主題別に開講される初回講義日の受付時において、お渡しいたします。

（研究推進・国際部研究推進課）

平成19年度大阪大学大学院薬学研究科公開講座『くすり医療』

目 的	薬学部6年制が導入され、薬剤師、薬学研究者の専門的かつ幅広い知識が益々必要とされています。本講座では基礎から臨床まで最新の知見をもとに、現在の課題と将来への展望について、それぞれ最先端の分野で活躍する研究者が講述します。
日 時	平成19年11月3日(土)、11月17日(土)
会 場	大阪大学コンベンションセンター 1階研修室(大阪大学吹田キャンパス内)
主 催	大阪大学大学院薬学研究科

●演題及び講師●

11月3日(土)

13:00～14:30	『新規遺伝子治療用ベクターの開発』 大阪大学臨床医工学融合研究教育センター 特任講師 吉 岡 靖 雄
14:40～16:10	『がんの悪性化・進展におけるケモカインの役割』 富山大学和漢医薬学総合研究所 助教 小 泉 桂 一
16:20～17:50	『炎症性腸疾患の病態生理－基礎から臨床まで－』 神戸大学大学院医学系研究科 助教 吉 田 優

11月17日(土)

13:00～14:30	『DDS技術によるワクチン療法の最適化』 大阪大学大学院薬学研究科 講師 岡 田 直 貴
14:40～16:10	『血管を標的とした免疫療法ーがん、関節リウマチ、肥満ー』 帝京大学薬学部 准教授 宇都口 直 樹
16:20～17:50	『新たな感染症(新型インフルエンザなど)の脅威――その対策?』 医薬基盤研究所理事長 山 西 弘 一

定 員	80名(先着順)
参 加 者	本講座は大阪大学に限らず広く薬学部卒業生、薬剤師(開局、勤務を問わない)、製薬企業勤務者等、薬に関する基礎知識を有する人々が対象ですが、一般の方でも本講座に関心のある方の参加を歓迎します。 なお、本講座は日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師制度対象講座及び大阪府病院薬剤師会(OHP)生涯研修制度認定対象講座です。

受 講 料	6,200円(申し込み後は、受講料の返還はできません)
申 込 期 間	10月1日(月)～10月24日(水)(定員に達し次第締め切ります)
申 込 方 法	受講料を下記の銀行口座に振り込み後、「納付証明書(銀行の窓口より口座振込する場合)」又は「ご利用明細(ATMより口座振込する場合)」と「受講申込書」を併せて、下記送付先へ郵送ください。

※「納付証明書」又は「ご利用明細」はコピーで結構です。

※現金持参又は現金書留でのお取り扱いはできません。

振 込 口 座	三菱東京UFJ銀行 茨木支店 普通預金 口座番号:1297750 口座名義:大阪大学薬学部(オオサカダイガク ヤクガクブ) ※ATMを利用される場合は(コクリツダイガクオオサカヤクガク)と表示されます。
---------	--

問い合わせ及び書類送付先

大阪大学薬学研究科庶務係 TEL 06-6879-8144(直通)
〒565-0871 大阪府吹田市山田丘1-6

(薬学研究科・薬学部)

大学改革関係資料を受贈

文書館設置準備室では、2007年6月に故高木修二名誉教授（基礎工学部）の令夫人町氏から、高木先生が評議員時代に関与された「大学改革推進委員会」「大学改革の基本方針検討小委員会」等に関するファイル5冊、文書数にすると243点を寄贈していただきました。

高木先生は、1923年京都府生まれ。京都帝国大学理学部物理学科卒業後、同大学理学部副手、同助教授、大阪大学理学部助教授、京都大学基礎物理学研究所教授を経て、1965年に大阪大学基礎工学部教授となりました。1969年からは評議員として大学運営に尽力されました。

高木先生が評議員になられた1969年は、「大学紛争」が最も激しかった時期であり、紛争をきっかけに大学改革に取り組んだ時期でした。本学においては、1969年に「改革準備調査委員会」（委員長は永宮健夫基礎工学部教授、通称「永宮委員会」）が設置され、「N案」ないし「永宮案」とよばれた報告が出されました。永宮案は大学の理想像を求めたものでしたが、この永宮案に沿って現行法規の下で比較的短期間に実現しうる改革案を作成することを任務とする「大学改革推進委員会」が設置されました。また、評議会は永宮案を検討する「大学改革の基本方針検討小委員会」を設置しました。高木先生はこの両委員会の委員として活躍されました。

永宮委員会の議事録は事務局に保存されていますが、「大学改革推進委員会」「大学改革の基本方針検討小委員会」議事録は事務局では保存されていません。今回御寄贈いただいた高木先生の資料は、事務局資料の欠落を補うものとして非常に貴重であり、今後大阪大学の大学改革を調査研究する上で欠かせない重要なものです。法人化した現在の大学運営においても、過去の大学改革案から学ぶべき事柄は多々あります。

文書館設置準備室では、前身校を含む大阪大学に関する様々な資料を収集しています。広報誌などの学内刊行物、時間割、講義ノート、文書資料、学生運動関係等のビラ、写真（アルバム）、記念品など、大阪大学の歴史に関する資料がございましたら、下記までご連絡いただきますよう、お願いいたします。

【連絡先】

〒560-0043 豊中市待兼山町1-32

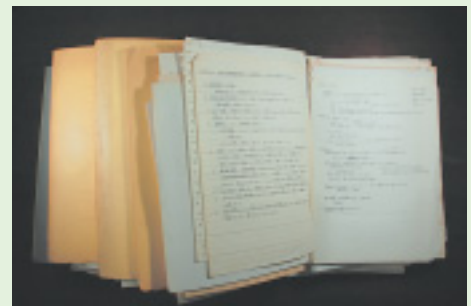
大阪大学サイバーメディアセンター気付 大阪大学文書館設置準備室

菅 真城（かん まさき）

電話：06-6850-6269 FAX：06-6850-6274

E-mail：kan@hpc.mmc.osaka-u.ac.jp

<http://www.osaka-u.ac.jp/jp/facilities/archives/top.html>



高木修二名誉教授寄贈文書

（文書館設置準備室）

病原体等の管理規制が強化されました

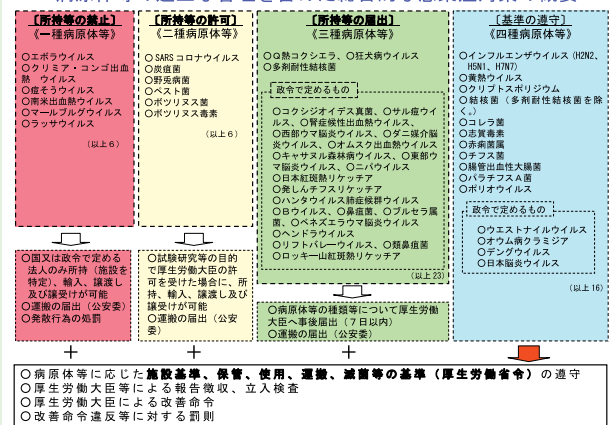
感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律の一部が改正され、平成19年6月1日から、病原体等の管理規制が大幅に強化されました。具体的には、病原体等の種類に応じてその所持・輸入等に厚生労働省への許可申請等が必要になりました。安全衛生管理部が窓口となりこれらの手続きを行います。

なお、管理規制の概要は、厚生労働省のホームページ（下記URL）に詳しく掲載されていますので、参照してください。

厚生労働省ホームページ『感染症法に基づく特定病原体等の管理規制について』

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou17/03.html>

病原体等の適正な管理を含めた総合的な感染症対策の概要



（安全衛生管理部）

吹田キャンパス千里門周辺の整備



旧留学生センター棟を改修したウエストフロント棟に、吹田阪大内郵便局、グローバルコラボレーションセンター及び大阪大学出版会が移転します。



ウエストフロント棟

■吹田阪大内郵便局（8 / 27 移転）

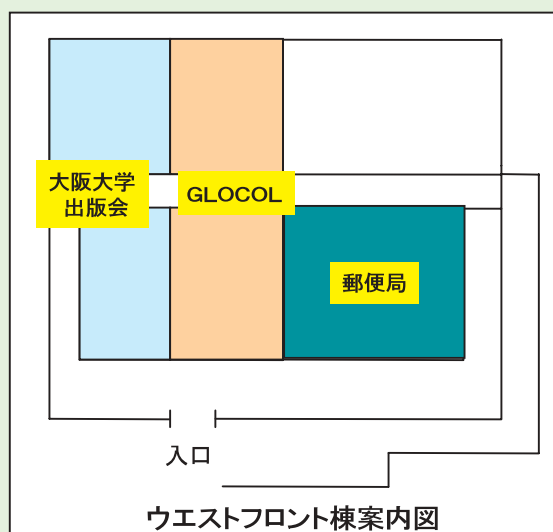
吹田阪大内郵便局は、8月27日（月）に、現在の工学部管理棟1階からウエストフロント棟へ移転しました。

窓口の取扱時間：9時～17時（平日・貯金、保険は16時まで）

■グローバルコラボレーションセンター（GLOCOL）（9月上旬移転予定）

グローバルコラボレーションセンター（GLOCOL）は、9月上旬に本部オフィス（センター長室と事務室）をウエストフロント棟に開設します。

4月に大阪大学中之島センター内に開設したオフィスとともに、運営拠点としてさらに活発な活動を展開していく予定です。



■大阪大学出版会（9 / 6 移転）

大阪大学出版会—研究成果発信の拠点のひとつに

大阪大学出版会は、設立15年目にしてはじめて、独立した事務所をウエストフロント棟に開設します。書籍の閲覧や購入もできるコーナーのある全面ガラス張りの営業部と、著者の先生方との打ち合わせスペースも備える編集部の2部屋となります。

学内外にオープンなウエストフロントの立地条件をいかして、大阪大学の先生方の研究成果である大阪大学出版会発行の学術書、教養書、教科書を気軽に手にとっていただけるゆとりのある雰囲気をもたせ、先生方と出版企画などについてくつろいでお話しできるスペースとなるように工夫をしています。

また、評価・広報課とも連携し、大阪大学インフォメーションセンターとしての機能を果たすことも目指しています。

どうぞお気軽にお立ち寄りください。

（大阪大学出版会）

新旧総長歓送迎会のご案内

日 時：9月25日（火） 17：30～
場 所：リーガロイヤルホテル 光琳の間
対 象：役員、名誉教授、教授、准教授及び講師
薬剤部長、看護部長及び医療技術部長
係長職以上の事務系職員
会 費：20,000円

問い合わせ先：総務部総務課総務係（6879－7014）

大阪大学・大阪外国語大学統合記念式典

日 時：10月1日（月） 11：00～
場 所：リーガロイヤルホテル ロイヤルホール
対 象：招待状発送者に限定しています。

問い合わせ先：総務部総務課総務係（6879－7014）



ガイドマップ

「改正増補國寶大阪全図」陶板（中之島センター）

江戸時代の大坂（大阪）には各藩の蔵屋敷が置かれていました。

特に中之島には多く集中しており、現在の中之島センターのある場所には、旧広島藩蔵屋敷、旧久留米藩蔵屋敷が立地していました。

この陶板は、文久3年（1863）に刊行された大坂の町を描いた「改正増補國寶大阪全図」で、中之島センター9階特別会議室に掲げられています。



広島藩、久留米藩（写真中央の中州）とその周辺



陶板の寄贈者、熊谷信昭元
総長を記した銘板

日本の印象

工学研究科 スダルト SUDARTO (インドネシア)



■ 日本への留学

大いなる夢・希望・期待と少しの不安を持って機上の人となり、インドネシアを後にしてからもう6年経ちました。当時の私と今の私とは、日本の印象も大変変化しました。インドネシアでの私の日本の知識はテレビドラマや時代劇、漫画から得たもので、現代の日本とは随分かけ離れた知識でした。実際に日本で生活し始めての印象は侍、忍者、おしんの姿ではなく、ラッシュアワーの電車の中や駅のホームで、新聞や本を読むサラリーマンと学生の姿でした。インドネシアでは見かけられない情景です。何故なら盗難に合うかもしれない無防備な姿だからです。日本の治安の良さが、母国と違う情景として私の一番の驚きでした。更に本を読みながら商店街を歩いている人、コンビニで立ち読みをしている人等が多くいることに疑問を持ち、友人に「何故日本人はそんなに本が好きなのか？」と聞いた事がありました。そのときの返事の「時間を大切にすることから」という言葉から、私は日本人の勤勉さを知ることができました。



家族が日本を訪れたとき
(2007年3月・上野公園、右から2番目が筆者)

そしてその時、日本人という漢字を分解すると‘日’‘本’‘人’となり毎日、本を、読む人、と考えられることに気がつきました。だから日本人は本が好きなのだという理由を見つけた自分自身に満足しています。後に、薪を背中に

背負い本を読みながら寸暇を惜しまず勤勉に励んだ二宮尊徳という人物を教えてもらい、私もインドネシアの困窮している地域にすこしでも彼のように貢献したいと思いました。

■ 阪大での生活

大学院では3価イオン伝導性固体の研究・開発を行い、より安全かつ高性能の材料の開発を目的として毎日研究に励んでいます。3価イオン伝導性固体の開発は電気デバイスの小型や安全性の向上につながるため新規な機能性材料として注目されています。また留学生会においては会長職に就き、研究の合間を見つけ、一先輩として留学生たちと話したり、相談に乗ったりもしています。そして日本の文化や日本人学生との交流がよりスムーズにできるように企画を立てたりもしています。



研究室で

■ 将来の夢

将来の夢は母国であるインドネシアに帰国し、日本での研究生活で得た知識を存分に発揮し、産業・技術分野では日米などの先進国より遅れている母国の科学技術革新に貢献したいと考えています。その夢を実現に向かって階段を一つずつ踏みしめて、これからも頑張っていきたいです。



“Connect the world in Osaka University”

私たち OUIA（ウィサ）（Osaka University International Students Association、大阪大学留学生会）は、大阪大学にある様々な国際交流団体からの要求や意見により 2004 年夏に設立されました。そのため、OUIA は慈善的な目的のために生まれ、活動しています。その目的とは、留学生達がより互いに交流しやすい環境作り、外国人学生としての学生生活や社会生活に関する広範な問題に対して自身の観点や意見を挙げる手助けをすることです。

私たちのつながりは、世界中のあらゆる地域からの留学生が興味をもっている問題に対してその解決案について話し合いができるような広く開いたプラットフォームのようなもの、言い換えれば、私たち外国人留学生の一人一人がメンバーである国際的な家族のようなものです。そうした包括的な相互交流に加え、私たち OUIA のモットーは‘阪大で世界をつなげよう：Connect the world in Osaka University’です。短くとも実現するには様々な努力が必要となりますが、OUIA は中心な役割を果たせると考えています。

今年の役員会は 6ヶ国、14 名の留学生から構成されており、忙しい学生生活の合間を見つけ、阪大の留学生がより充実した生活を送るために様々な交流イベントを企画しています。具体的には今年の 5 月にはインドネシア留学生たちによる Indonesia Food Party が開催され、300 円という低価格で約 180 人が本格的なインドネシア料理を味わい、交流しました。そして日本の文化を知ってもらう企画の中では、留学生交流支援サークル BSP と共催で 7 月 6 日に‘七夕パーティ’を開催、流し素麺・スイカ割りといった日本ならではの楽しみを多くの留学生が体験しました。また今年の 11 月 17 日に開催されるスポーツ大会も恒例行事の一つであり、スポーツを通じて留学生同士だけではなく、日本人の学生や阪大職員との交流の場として毎年数多くの参加者でにぎわっています。

これからも留学生の代表として、様々な活動を通じて留学生の一人一人が日本での留学生生活をより充実させ、より楽しく過ごせるようにサポートしたいと思っています。

追加：私たちの活動に興味がある方は www.ouisa.jp まで

Sudarto
会長



2007 年度の役員会と留学生センターのスタッフ



インドネシア料理パーティの Nasi Kuning（黄色のご飯）



七夕パーティの様子

水 泳 部

「100人で高めあえる喜び」



誰もが一度は経験したことがあり、生涯スポーツとしても多くの人に愛されているスポーツ、それが私たちが打ち込んでいる「水泳」です。

皆さんご存知のとおり、水泳というスポーツは他のどのスポーツより全身を使う運動です。そのため、効率良く体を鍛えることができるので、ムダな脂肪を落とすことももちろん、バランスの取れた筋肉をしっかりと付けることもできます。

また、“泳げる”ということの喜びを感じることが出来ます。真夏の暑苦しい時期を想像してみてください。少し動いただけなのに、汗で体がベトベトする、あの嫌な時期。そんな時に「思いつきり体を動かしてなおかつサッパリ」とした気分を味わうことができる。こんなスポーツは数あるスポーツの中でも水泳ぐらいのものでしょう。

阪大水泳部の活動は、「競泳」「水球」「マネージャー」の3つに分かれています。

まず一つ目の「競泳」は、多くの人がイメージするであろう水泳のイメージに近いと思います。自由形・背泳ぎ・バタフライ・個人メドレーの中で自分の得意とする種目を選び、練習を積み重ね、自己の能力を高め、よりよいタイムが出せるよう切磋琢磨していく競技です。

タイムを追求するという性質上、個人競技の色合いが強いですが、大学の大会では、大阪大学として、他の大学と点数を競って勝負をしますし、勝つために専門外の種目に出場したり、リレー競技があったりと、団体として楽しめる面も多くあります。



次に「水球」ですが、泳ぎながら相手を制し、パスを回してボールをゴールにシュートする、水上ハンドボールのようなスポーツです。競り合いが激しく、スタミナもスプリント力も必要というタフな競技であることから、「水中

の格闘技」とも呼ばれています。阪大水泳部では、大学から水球を始める選手が多く、初心者でも試合で活躍できるチャンスは十分あります。近年では、毎年関西で上位の成績を収め、インカレに出場しています。



最後に「マネージャー」ですが、阪大水泳部にとってなくてはならない存在といえます。練習・試合で選手のタイムを測ったり、フォームのチェックをしたり、水球では審判をしたりと重要な仕事を担っています。水泳の知識がない人でも、先輩に教わりながら、役に立てるように成長していています。選手の成長を助け、喜ぶことができると同時に、自身も一緒に成長できることが魅力です。

色々と紹介してきましたが、阪大水泳部の一番の売りはやはり毎年「100人」を超える部員数です。夏に4回生が引退するまでの期間には、総勢100人近くの部員とともに水泳を楽しんでいくことになります。今年の七帝大戦を制することができたのも、100人の勢いがあったからだと思っています。

100人と高めあえる喜びは、大学生活に華をそえること間違いなしでしょう！

主将 浜中 志郎(薬・薬3回生)

〈コメント〉

来年も泳ぎに泳いで七帝大戦を制してみせます！皆さんと一緒に泳ぎませんか？



練習場所：阪大プール（豊中）

練習日時：月～金 個人練習（朝練と夕練）

土 全体練習（9：00頃より）

部員数：男子53名 女子22名

連絡先：外尾竜太（主務） TEL：090－8795－3985

部活HP：<http://www.geocities.co.jp/Milkyway-Orion/1099/>

マドリッドアウトノマ大学(スペイン)



Universidad Autónoma de Madrid (UAM)



Universidad Autónoma de Madrid
C/ Einstein, 1
Ciudad Universitaria de Cantoblanco
28049 Madrid
SPAIN
<http://www.uam.es/>

アーモンドやミモザの花の並木道もある



1968年に設立され教職員約3,200人、学生数約34,000人を擁する国立大学です。

理学部、哲文学部、法学部、経済・商学部、心理学部、医学部、高度技術学校、教育学部等からなり、1985年に日本語講座、1992年に東アジア研究所（CEAO: Centro de Estudios de Asia Oriental）を開設し、日本及び中国研究を行うなど、日本研究及び日本語について比較的関心の薄かったスペインにおいて草分け的な存在となっています。

90年代初頭に教育科学省によって行われたスペイン唯一の大学評価調査でトップにランクされ、スペイン王室のフェリペ皇太子も法学及び経済学の学位を取得した卒業生です。

1998年9月に当時の両大学長の意向によって「大学間協定意思表明書」、2003年6月18日に「学術交流協定」を締結し、さらにこの度、学生交流の覚書も締結し授業料等相互不徴収による交換留学が可能となり、益々の交流が期待されます。

編集後記

8月26日に鷺田清一第16代大阪大学総長が就任されました。今月号では就任挨拶を掲載するとともに、新総長へのインタビューも掲載しています。10月に大阪外国語大学との統合を控えて、今後鷺田総長のもとで大阪大学が進む方向が示されていますので、是非熟読ください。

また、8月18日には総合学術博物館・待兼山修学館がリニューアルオープンいたしました。クローズアップで取り上げていますが、そこで紹介しきれないほど見所満載の充実した博物館となっています。阪大の歴史や先人の業績など、私達の阪大をよりよく知るためにも、是非一度は足を運ばれることをおすすめします。入口のマチカネワニは実際に見ると圧巻です。
(瀬尾)

「天神祭船渡御に今年も出船」

大阪の夏を彩る天神祭船渡御。今年で3回目の参加となり、大阪大学夏の行事として定着してきた船渡御に、7月25日(水)阪大船が出航しました。今年、大阪外国語大学との統合を10月に控え、「大きく生まれ変わります 大阪大学」をキャッチフレーズに、多数の同窓生、学生、現役の教職員が参加しました。大阪大学を広く大阪市民にアピールする声が、全員の大阪締めかけ声とともに大川に勢いよく響き渡りました。



左から、宮原秀夫総長、熊谷信昭元総長、金森順次郎元総長、岸本忠三前総長

■ 歴代総長が勢揃い

歴代の総長が船上に顔を揃えました。同窓会連合会会長の熊谷信昭元総長から、「今年は大阪外国語大学と統合し学部定員規模では日本一の総合大学となる。また、ファミリーがさらに増え、まさに大阪の顔となる我ら母校の発展を心からお祝いたい。この夏のイベントが永遠に続くよう盛り上げていきたい」と挨拶がありました。また、宮原秀夫総長は、「各大学とともにこの関西、大阪を盛り上げていきたい」とアピールし、大きな喝采を浴びました。

■ 奉納演奏で安全祈願

船渡御の安全祈願及び盛会を祈念し、7月19日(木)、本宮である大阪天満宮において、大阪大学交響楽団による奉納演奏が行われました。楽団員の学生8人による弦楽合奏で、「花のワルツ」「川の流れのように」など4曲を奏でました。天満宮の長い歴史の中で、本殿において演奏が行われたのは初めてのことです。



大阪天満宮本殿での演奏

阪大 NOW No.98 2007 8月号

2007年8月26日発行

編集・発行 大阪大学総務部評価・広報課 〒565-0871 大阪府吹田市山田丘 1-1
TEL: 06 (6879) 7017 FAX: 06 (6879) 7166
ホームページアドレス <http://www.osaka-u.ac.jp>

「阪大NOW」へのご意見、お問い合わせ、記事の提供等がありましたら、下記までお寄せ下さい。
E-mail: souhyokoukohou@ns.jim.osaka-u.ac.jp